

井形学部長・理事、吉井に特任申請を自主的に辞退せよと迫る

2012年10月15日、吉井研究室において

1	吉井 はいはい。
2	井形 あ、どうも。
3	吉井 あー、はいはいはい。どうぞどうぞ。
4	井形 先生、すいません、
5	吉井 はいはい。
6	井形 今、じゃあ、あの、この、
7	吉井 ほお。
8	井形 1時間半、
9	吉井 あ、いいよ。
10	井形 よろしいですか？
11	吉井 大丈夫よ。
12	井形 はいはいはい。えっとね、先生、
13	吉井 ほうほう、
14	井形 あのー、
15	吉井 ほお。
16	井形 はい。あのー、実はね、
17	吉井 うん。
18	井形 あ、ここよろしいですか？座らせてもらって。
19	吉井 あー、いいですよ。座って。
20	井形 はい。あのー、
21	吉井 ほお。
22	井形 実はね、
23	吉井 ほお。
24	井形 今回まあ、先生に
25	吉井 ほお。
26	井形 出していただいた計画書案なんですけどね、
27	吉井 なんか問題あった？
28	井形 うん、あのね、
29	吉井 うん。
30	井形 実はまあ、先生もご存知の通りでね、
31	吉井 ほおほお。
32	井形 我々の、まあ学部というか
33	吉井 うん。
34	井形 大学がそうなんですけど、
35	吉井 ほお。
36	井形 あのー、まあ、たとえば今後の次年度授業計画のときには、
37	吉井 ほお。
38	井形 カリキュラム委員会の、
39	吉井 うん、うん。
40	井形 審議といますか、
41	吉井 うん。
42	井形 あれを経て、まあ、
43	吉井 ほお。
44	井形 てれてまあ、あのー、教授会にて決定されることになってますよね。つまりあの、わたしの次年度科目で
45	吉井 うん、あのさ、俺はようわからんけど、
46	井形 はい。
47	吉井 二宮さんと同じように、
48	井形 はい。
49	吉井 やっといてくれたらええねんで。
50	井形 ど、どういうことですか。
51	吉井 二宮さんの、
52	井形 あー、はいはい。

53	吉井 特任教員と同じように進めてくれとったらそれでいいので
54	井形 はい、はい。ええー、だから、二宮先生と同様のこと、
55	吉井 うん、ほんならそれで結構や。
56	井形 ところがね、先生今回まあ出していただいた書類でね、
57	吉井 うん。
58	井形 あのー、カリキュラム委員会として、
59	吉井 うん、うん。
60	井形 まああの、全員の総意なんですがね、
61	吉井 うん。
62	井形 あのー、まあ、あの、ちょっと6つの項目で、
63	吉井 うん。
64	井形 あのー、まあ、ちょっとこれ、あのー、まあ、今回の授業計画、
65	吉井 ほお。
66	井形 認めがたいという
67	吉井 ほお。
68	井形 意見があったんです。
69	吉井 ああ、そう。
70	井形 はい。
71	吉井 どういうふうなことなの？
72	井形 はい。あのー、
73	吉井 うん。
74	井形 まず、ちょっとこれ読み上げますね。
75	吉井 うんうん。
76	井形 あのー、まず二部科目としておかれてる
77	吉井 うん。
78	井形 情報ネットワーク論Ⅰ、Ⅱ、
79	吉井 うんうん。
80	井形 と、まあ、情報バリューエンジニアリング、
81	吉井 うん。
82	井形 それと経営情報論、
83	吉井 ほお。
84	井形 演習Ⅰが、
85	吉井 うん。
86	井形 開講けい、えー、開講計画とされていらっしゃるんですがね、
87	吉井 うん。
88	井形 あのー、すべて実はこれ二部科目としては存在しないということになってるんですね
89	吉井 ちょっと待って。それ見して。あのー、ちょっと書類みてください。おれも忠実に、
90	井形 はい。
91	吉井 今やってるやつをまとめたんだけど、
92	井形 はい。
93	吉井 えー、それがひっかかっておるようであれば、
94	井形 はい。
95	吉井 直さんとあかんからね。
96	井形 はいはいはいはい。いや、あのね、まあまあ、ちょっとこれが、
97	吉井 ほお
98	井形 まず1点なんです。
99	吉井 ほうほうほう。
100	井形 で、まあまあ、先生だしていただいたんこれです。この通りです。
101	吉井 ほお。
102	井形 はい。
103	吉井 これのどこが悪いや。
104	井形 であのね、
105	吉井 うん。
106	井形 あのー、てなことて、再雇用にあたり、まあ、
107	吉井 うん。

108	井形 担当科目として設けることができない、というのがまず大きな1点、
109	吉井 ちょまって、ちょっと待って。
110	井形 はい。
111	吉井 そういうやつわな、記録しとかんと何を言われたかちゅうの俺わからへんからな。
112	井形 はい。
113	吉井 だから、えー、正確にメモしとかんとさ。
114	井形 はい。
115	吉井 まず、1点目はなんだっけ？
116	井形 ちょっとこれあの、あれなんで、
117	吉井 ちょっと書くわ、な。
118	井形 はい。
119	吉井 僕の場合はさ、あのー北村さんの圧力はいろいろあったからね、だから、そのー、公正さ、を、そのー、お願いして、しておるのが僕あのー、ポイントなんで、その、入口に書いてるように公明正大でね、
120	井形 はい。
121	吉井 えー、進めてほしいわけで。
122	井形 うーん。
123	吉井 あの、それが僕の唯一の要望や。
124	井形 はい。
125	吉井 うん。
126	井形 要はね、あの先生ね、
127	吉井 うん。
128	井形 まあ、書いてることはもちろんかまわないんですが、
129	吉井 ほおほお。
130	井形 先生のこれをもとに、
131	吉井 ほお。
132	井形 ま、あの、あれですんでね、
133	吉井 ほお。
134	井形 だから二部科目としておかれた情報ネットワーク論Ⅰ、Ⅱ、バリューエンジニアリング、あー、情報バリューエンジニアリング、
135	吉井 ちょちょっと待ってや。俺メモしよう思とんのにさ。
136	井形 はあ。
137	吉井 ちょっと先、先生やられると。
138	井形 ああー。
139	吉井 どうしてその、あの、な、あれやメモの、書くやつをな、
140	井形 はあ。
141	吉井 貸してくれ言われたんで貸してあげたんだわ。
142	井形 あー、そうか。
143	吉井 ちょっと申し訳ない。
144	井形 はい。
145	吉井 えーっと、大事な件なので、この太いやつで書くわ。
146	井形 はい。
147	吉井 まず1点、
148	井形 はい。
149	吉井 僕のだしたカリキュラム、
150	井形 二部科目としておかれてる、
151	吉井 うん。
152	井形 情報ネットワーク論Ⅰ、Ⅱ、
153	吉井 うん。
154	井形 情報バリューエンジニアリング、
155	吉井 えー、情報ネットワーク論、情報ネットワーク論Ⅰ、Ⅱ、うん。
156	井形 情報バリューエンジニアリング、
157	吉井 情報VE。はいはい。
158	井形 それから、経営情報論ですね。
159	吉井 うん、経営情報論。

160	井形 て、演習Ⅰ。
161	吉井 経営情、ちょまってや。報論。て、演習Ⅰはさ、これは二部じゃないやろ？
162	井形 うん？
163	吉井 演習Ⅰというのは、ゼミやろ？
164	井形 ゼミですよ。
165	吉井 な？
166	井形 いやー、ちょちょちょっと待って、
167	吉井 演習Ⅰっていうのは、これは。
168	井形 演習の科目ですね。演習Ⅰは。
169	吉井 あの、ちょっと待ってな。二部科目、情報ネットワーク、二部で教えてるのは、
170	井形 はい。
171	吉井 情報ネットワーク論Ⅰ、Ⅱと
172	井形 はい。
173	吉井 それから、情報バリューエンジニアリングと、
174	井形 はい。
175	吉井 経営情報論。これは、あの一、二部科目で教えてるよ。あの一、え一、井形さんの了解のもとで教えてるぞ。
176	井形 えーっと、
177	吉井 うん。
178	井形 そしたら、これ二部設置科目ではないというご意見なんですネ。
179	吉井 二部設置科目ではない。
180	井形 存在しないということです。一部設置科目で存在してると。つまりね、一部の科目を先生は夜の時間にもっていかれて授業されてるという認識なんです。
181	吉井 それはおかしいわ。
182	井形 いや、あの一、事実、あの一、先生でも、二部で教えてらっしゃいますよね。ただね、
183	吉井 これ一部と二部と両方教えてるよ。
184	井形 んー、や、まあまあ、あの、ただね、先生ね、あの、いや、これ、してるのが誤りっていうわけじゃなくて、二部にはもともとそういう科目置いてないのに、ない、ないんですが、先生はその、え一、一部の科目を二部のほうに、時間帯でおこなっているという認識なんですけどね。あ、これがね、先生、問題とか今言ってるんじゃないで。 (甲20より、井形発言は虚偽)
185	吉井 ちょっと待って。二部設置科目、まあええわ、一応聞くだけ聞いわ。
186	井形 ええ、ええ。つまりね、一部にある科目を先生二部の時間帯にもっていかれてる、ということなんです。でね、あの、これは、ただね、あの科目によってとか人によってはそういう柔軟もある、まあ、あるんだけど基本的には、二部になんか科目になっている、って言っているのがカリキュラム委員会の見解なんですネ。
187	吉井 うん、わかった。
188	井形 はいはい。で、まあ、ちょっとこれがまず、あの一、1点目の、まずこれが、
189	吉井 見解やね。
190	井形 はいはい。その内容としまして3点ね、
191	吉井 うん。
192	井形 1番上のところにあるんですが、
193	吉井 うん。
194	井形 えーっと、2010年度の国内留学を終えた段階で、
195	吉井 うん。
196	井形 就業規則上の義務コマ数をこなすため、特別に一部科目を夜間開講していると、つまり、あの当時の先生ね。
197	吉井 そんな、そういうふうな特別に、
198	井形 はい。
199	吉井 二部開講したらって誰が言ってるの？
200	井形 いやいや、カリキュラム委員会で。
201	吉井 それは、前のカリキュラム委員会じゃなくて、今のカリキュラム委員会？
202	井形 今のカリキュラム委員会ね。
203	吉井 うん。
204	井形 あの、それでね、あの一、これを恒常化するには少し問題があるんじゃないかということです。まあ根拠はない。

205	吉井 北村さんの意見ね、これを恒常化している。
206	井形 うん。で、現状では、まあ、一部科目の複数、えー、開講で、であると。で、まあ、これ自体がその、なにか非常に学生にとって不利益を生むんじゃないんですか。もともとは、あの、先生これはあの、こ、留学から帰ってこられた時に特別にね。
207	吉井 ま、まあ、いいわ。先生の意見だけ先聞くわ。
208	井形 はい。ほんで、
209	吉井 うん。
210	井形 えー、
211	吉井 うん。
212	井形 ましてまあ再雇用の判断にあたっては、ちょっとこれを認めるのは難しいです。
213	吉井 それは誰が？
214	井形 いや、誰がなのかわからないです。これです。カリキュラム委員会、しかない。
215	吉井 俺さ、カリキュラム委員会にセクハラとかいろんなことをやった教員を入れるなって俺言ってるやろ。俺今回の状況でみては、
216	井形 はい。
217	吉井 その情報をオープンにするわ。そういうふうなやつを彼らはどう処理したのか。そういうことやってうちの経営学部のその、透明性、公平性ね。
218	井形 はい。
219	吉井 それから公明正大さ。
220	井形 はい。
221	吉井 これをその入口に書いとるけどね。
222	井形 はい。
223	吉井 それをその、知らしめることによってね、
224	井形 はい。
225	吉井 経営学部を好ましい方向に持っていかなあかんと思うとんねん。だから、俺ちょっと、その一、あとで俺もちょっと考えるは、
226	井形 これがまず1の一つ目の理由。
227	吉井 うん。
228	井形 二つ目の理由ね。
229	吉井 うん。
230	井形 これらの科目2013年度開講するには二部科目として、まあ、新設する必要があるだろうと。
231	吉井 うん。
232	井形 で、二部科目は昨年から必要度の低いものを不開講、そして廃止を続けていますので、まあ急に新しい科目を新設する意見は現在、まあ、なかなか難しいだろう。つまりあの、二部科目を減らす方向にありますんでね。
233	吉井 うん、オッケー。
234	井形 はい、これは先生ご存じでしたよね？
235	吉井 あのさ。
236	井形 二部科目っていうのは。
237	吉井 あのさ、
238	井形 はい。
239	吉井 まあええわ、先、先、全部言うて。
240	井形 はい。
241	吉井 せやけど、俺が今行動しとるのは、
242	井形 はい。
243	吉井 あのー、井形さんの指示に従って、
244	井形 あー、そうですよ。そうです。
245	吉井 その、やってるんやで。
246	井形 そうですよ。
247	吉井 井形さんの指示に従って、井形さんが二部をもっていいよということでやってる。そういうメモもらってるもん。
248	井形 いやいや、ええ。持っていいよ、わたし認めたもので。ただね、当時先生2010年帰ってこられた段階で、先生はコマ数がなかったんですよ。あのー、つまり、昼だけでは4コマ満たなかったんですよ、あの時は。だからね、先生ね、これをもってのからいかんじゃないんですよ。
249	吉井 まあいいわ。

250	井形 あの、つまり、次年度から持つという。
251	吉井 あのさ、あの一、もつもたないはいねん。
252	井形 はい。
253	吉井 せやけどね、
254	井形 はい。
255	吉井 あの一、彼らのやり方から見たならば、
256	井形 はい。
257	吉井 コマ数が不足するというこでもって、
258	井形 はい。
259	吉井 退職に追い込むっていうのが彼らの今までのシナリオやったからね。 それをカリキュラム委員会としてはそういうふうにもっていかないんであれば、
260	井形 はい。
261	吉井 僕は科目減るのは、なんぼでもいいよ。というのは、4コマを割らなければ僕はいいんだよ。
262	井形 そ、そ、そうです。ですから、いや、でも、先生に限らず、留学から帰って、
263	吉井 あ、留学の問題じゃなくて。
264	井形 はい。
265	吉井 その、いわゆる特任を認められたとしたならば。
266	井形 はい。
267	吉井 特任を認められた以降ね、
268	井形 はい。
269	吉井 その一、いわゆる教員としての、
270	井形 はい。
271	吉井 条件を満たすようにさえしてくれたならば、僕はもう別にもう二部をもたなくてもいいよ。
272	井形 ええ、まあまあ、先生。
273	吉井 それさえ、その、
274	井形 まあまあ、
275	吉井 それさえ、
276	井形 はい。
277	吉井 あなた方がマネージしてくれたならば、
278	井形 はい。
279	吉井 僕は別に、その一、学生へのサービスの、僕がやろうとしている学生へのサービスの、その一、 あれが減るだけであってね、
280	井形 はい。
281	吉井 減るだけであって、僕の雇用を守るわけだからね。特にはいいですよ。
282	井形 あの一、雇用って先生の
283	吉井 ほお。
284	井形 雇用を守るんじゃないくて、
285	吉井 うん。
286	井形 先生はいったん、あの、今年ね。
287	吉井 ちょ、ちょっと待ってくれ、あのね、再雇用のあれについては北村さんがはっきり言ってたよな。
288	井形 はい。
289	吉井 つまり、えー、なんとかさんの関係で、いわゆるその一、えー、 再雇用する、されるかどうかかわからないということを書いてたよな。
290	井形 はい。
291	吉井 それはね、ひとつの我々が特任教授を申請する義務があんねん。で、今度は、
292	井形 えっと、特任教員を申請する義務ですか？
293	吉井 あの、いわゆる権利があってそれが認められているやんか、規程で。何年以上勤めたならば、
294	井形 はい。
295	吉井 雇用なんかであるっていうふうになってるやんか。
296	井形 えっとそれどこに書いてます？特任教員規定に。義務っていうのはどこに。
297	吉井 義務っていうよりも規程であるやんか。ひとつ言うときけどね。
298	井形 はい。
299	吉井 あなたがたのマネジメントは、
300	井形 はい。
301	吉井 その僕を、その、特任教員を認めないという方向にしか、俺、聞こえへんねん。

302	井形	いやいや、先生、ちょちょちょっと、僕は、僕はそんなこと、先生、僕はそんなこと、
303	吉井	ここ書いとるやんか。
304	井形	はい。
305	吉井	大学に6年以上勤務し定年退職した専任教員、
306	井形	はい。
307	吉井	は、その、一定の基準を満たしたものを特任教員として任用することはできる、やろ。
308	井形	できるんですよ。はいはい。
309	吉井	できるということは、
310	井形	はい。
311	吉井	それを申請する権利をもってるということやねん。
312	井形	申請する権利をもつ言うのは、まあまあ権利はもちろんあります。
313	吉井	権利はあるよ。だから、
314	井形	義務ではない。
315	吉井	認められるかどうかというのはね、
316	井形	はいはいはい。
317	吉井	それは、その、大学側の問題や。
318	井形	はいはいはい。
319	吉井	しかし、判例的にね、その一、認められないというケースは俺はないと思うねん。
320	井形	えーっと、
321	吉井	この前話をした、えー、なんかさんっていう先生の件はね、あれは僕は教授会の席上で言ったけれども、その一、いろんな思想的な対立があったんでしょ。対立があったがために、その彼らはあの一、3月のその、理事会でね、
322	井形	はい。
323	吉井	その、理事長か学部長か忘れちゃったけど、特任教員として認めるわけにはいかないということで訴訟問題になってさ、結果として、その、先生方はその、いわゆる定年でもって一応雇用が終わるんだと、という、そういうその判例が出されたわけやろ。
324	井形	はい。
325	吉井	あの、それは正しく認識しなあかん。
326	井形	ええ、先生、そのケース、
327	吉井	うん。
328	井形	僕はよく存じ上げないので、まあ、
329	吉井	ただ、お願いしておきたいのはね、
330	井形	はい。
331	吉井	自分がそのときおらなかつたからでは、その一、先生に、のもとで働く、
332	井形	はい。
333	吉井	僕以外の教員にとっても、
334	井形	はい。
335	吉井	その一、大事なことやからね。
336	井形	はいはいはい。
337	吉井	それはおんなじようにやってほしいんでね。
338	井形	はい。いやいや、これはもうどなたに限らず。
339	吉井	うんうん。
340	井形	でね、先生ね、
341	吉井	うん。
342	井形	次なんですがね、
343	吉井	うんうん。
344	井形	3点目なんですがね、
345	吉井	ほお。
346	井形	1の理由の3点目、演習Iが夜間開講されていることにも驚くという。
347	吉井	3点目でな、
348	井形	はい。
349	吉井	ちょっと待って、演習Iが夜間開講してんの？
350	井形	えっと、今現在演習Iされているというふうに先生書かれていますやん。
351	吉井	演習Iはさ。
352	井形	はい。

353	吉井	これ夜間か？俺、
354	井形	え、お昼にやっておられるんですか？
355	吉井	ちょっと待ってくれよ。俺、あの演習っちゅうのは、
356	井形	はい。
357	吉井	あの、皆さんがたと同じように、
358	井形	はい。
359	吉井	あの、今年の演習は秋学期で、俺、今、演習もってるやろ。
360	井形	はいはい。何限目に開かれてます？
361	吉井	ちょっとまってや。なんか知らんけど、すご、すごい発言がでるんやね。
362	井形	はい。
363	吉井	あの、ちょっと悪いけどカリキュラム委員会っちゅうのはほんとにあの一、 適正なカリキュラム委員会なのか。
364	井形	うーん、先生ね、
365	吉井	というふうに、
366	井形	それ、それは、
367	吉井	俺の発言から言うたならば、
368	井形	はい。
369	吉井	あの北村さんといったような方はほんとは除かなあかんと思うねん。
370	井形	はあはあはあはあはあ。
371	吉井	俺から見たならば、だってセクハラの、それをその人権委員会でね、
372	井形	うーん。
373	吉井	そのやってる人なんだぜ、んで、**（現職教員のため、削除）はセクハラで訴えられた人なんだぜ。
374	井形	うん。ただ、まあまあ、先生、ちょっとそういうのは。今演習Ⅰは何限目にされてるんですか。
375	吉井	演習は今、えー、4限目にやってるよ。演習Ⅰ。
376	井形	4限目ですか。
377	吉井	これ、夜のあれか、俺がも、も、もって、もたされているのは、
378	井形	はい。
379	吉井	これは夜の二部の科目なのか。
380	井形	ちょっと待ってくださいね。先生、2013えっと今ごめんなさい先生今僕これちょっと見ますね。
381	吉井	俺もちょっと演習Ⅰが。
382	井形	2013年って、先生、ここに演習Ⅰって、二部に入っていますけど、これどういうことですか。
383	吉井	いや、それは記入ミスやろ。
384	井形	あー、ちょっといらわないでくださいね、先生、まだ。
385	吉井	うん。いじれへんけれども。
386	井形	はいはい。記入ミスですね。
387	吉井	あの一
388	井形	まあまあいいです。
389	吉井	ちょっと待って。えーっと、演習、ん、これは記入ミスや。
390	井形	さわらないでくださいよ。
391	吉井	うん。さわらへんさわらへん。
392	井形	記入ミスですか、これは。
393	吉井	うん、記入ミスや。
394	井形	まあまあいいですわ。ほんでね、演習Ⅰが夜間開講されていることにも驚く、 演習Ⅰは募集時に30名採用を主張し、調整の結果24名採用したと聞く。これは先生事実ですか？ あ、こ、今年度の演習です。
395	吉井	今年度の演習？演習はそうやんか。
396	井形	はい。
397	吉井	24名までもつことが、席の関係でね25あるけど24までもてるから、 学生のその要望にできるだけ応えようということで、これ先生と話してさ。
398	井形	いや、先生20名でしたよ。24なんて数字出ませんよ。一度もわたし20超えて、 あのもちろんね、ゼミによってはまあ、20名超える場合、あの超えるっていうのもおかしいんですが
399	吉井	ちょっとさ、あの一、俺今まで22、3名とかさ、ずっともってきとるで。
400	井形	いやいや、通常先生何名かご存じですね。うちのゼミ数。
401	吉井	通常16名とかそれぐらい。

402	井形 16名やね。それで、特別なまあこの数年ね、あの、可能ならば20名までお願いしますとは言うてます。ほんでその結果ね、先生、まあ、21名あの一なるとかいうのは聞いたことあるんです。21、22というのはね。たとえば、二部の子が入ってきたとかいうので。いや、先生、ちょ、ちょっと最後まで聞いてくださいね。でね、あの24名採用したとき、これは学部の演習開講定員基準を無視・違反するもので、速やかに解消・是正すべきであると。で、ちょっと次の言葉厳しいですがね、長年勤務にもかかわらず、学部の教学システムをご理解されていないのではないかという意見、意見まで出たんです。これは、ま、僕じゃなくてカリキュラム委員会で。
403	吉井 北村さんやろ。
404	井形 いや、あのもちろん北村先生も入ってますが、ちょっとわかんないです、僕も。
405	吉井 北村先生の独断で言うてるっっちゃうなことちらっと情報が流れてきてるんやけど。誰からか私はわからんけど、他の先生方はずーっと黙ってるっっちゃうふうに聞いてるだけ。
406	井形 そうしたら、先生、委員長は池島ですからね。まあまあ、ちょっとそういう意見があったと聞くという。それが、まあ1、2、3が、そのう1、つまりあの、えー、それぞれの情報ネットワーク論等の科目が、あの一、二部に採用しないので、まあ再雇用にしては、ちょっとこれは、あの一、まあ了解できないのが1点です。
407	吉井 再雇用としては了解できないっていうのはどういうことですか？
408	井形 再雇用としてその科目、あの一、その科目、再雇用していただ、さ、さ、再雇用に…、
409	吉井 再雇用に際して、その科目を認めることはできないということやね。
410	井形 まあまあ言い方かえましょう。その科目を二部に設置することはできない。
411	吉井 そら当然そうや。演習Iは俺のミスやからな。
412	井形 はい。
413	吉井 うん、わかった。
414	井形 はい。それからね
415	吉井 うん。
416	井形 2番目なんですけど、
417	吉井 うん、2番目。
418	井形 えっと、外書購読I、IIっていう科目につきましてね、
419	吉井 うん。
420	井形 これカリキュラム委員会には、まあ、従来から廃止意見があったと、だから今現在もあるんですけどね、あの一廃止意見があると、また、当初の外、あ、えー、外書購読の主旨からしても、現状の担当者での開講が成果、つまり、大学院進学等ですね、あげていないとの指摘が今まであったということです。
421	吉井 大学院の、なに？
422	井形 進学。大学院への進学です。
423	吉井 進学。それは、
424	井形 はいはい。いわゆる成果に結びついていないではないかと今までが。これは、先生に限らず。
425	吉井 俺に限らんもんやな。
426	井形 はい。で、この科目廃止するか、特定者に、まあ限定せずに大学院出題傾向に、が、をみすえるものが担当するなど、ま、より相応しい方がいるのではないかと意見、これがまあ出された訳ですね。で、その意味では、あの先生今大学院をお持ちでないですね。2013、14、15
427	吉井 大学院はあなた、あの一、二宮さんたちの圧力で僕が辞めたわけだよ。もっていないじゃなくて、辞めさせざるをえないような状況に、当時の執行部がもっていった訳だからね。そんなことを言われてさ、言うのはおかしいんじゃない。
428	井形 えっと先生、大学院を、あの、前、前
429	吉井 大学院もってたんだよ。わたしは。
430	井形 はい。
431	吉井 もっていたけれども、二宮さん、樋口さんの執行部のときに、いわゆるその、えー、必須科目であった経営情報論とかなんとかをね、で、その1コマ、1科目をなんか減らすとかなんとかやってきたわけだわ。だから、そういうふうな状況で、その攻撃がものすごくひどくなるからね、だから、攻撃されるということはそれを絞らなあかんから、大学院の担当を僕は外れていったんだよ。
432	井形 うーん。先生ね、僕ちょっと思うんですけど。
433	吉井 あの一、俺さ、

434	井形 その一、先生その、大学院、まあ僕らいったとき、先生の大学院のあの研究科委員会いらっしやったの僕知ってるんですけど。
435	吉井 うん。そらそうやろ。
436	井形 でね、先生あの一、僕覚えてるのは、先生、いや私は大学院もたないというかたちで、研究科委員会でご発言されたというのを、僕覚えてるんです。
437	吉井 うん、それ、それ正解やろ。
438	井形 はい。
439	吉井 もたないのは、
440	井形 はい。
441	吉井 逆に言うとな、その二宮さん、樋口さんたちの、
442	井形 うーん。
443	吉井 その、えー、いろんなアカハラがあった、からなんだよ。
444	井形 うーん
445	吉井 だから、それね、あのね、僕ね、あの僕の日記なんか見て、その記録残してるわ。
446	井形 はい。
447	吉井 ね、それをね、僕、思うんだけど、
448	井形 はい。
449	吉井 思うんだけど、二宮さんたち、樋口さん、えー、北村さんたちが、その一、どういうマネジメントをやってきたかちゅうのをね、
450	井形 はいー。
451	吉井 経営学部でいっぺん洗い出す必要があると思うよ。
452	井形 うーん、あの先生ね、わかりました。ちょちょちょ、
453	吉井 それをね、あのね、
454	井形 あの経緯って言いますが、
455	吉井 うん。
456	井形 事実経緯だけでしかちょっと僕ら判断できないと言いますかね、例えばその場でこういう発言されてこういうふうにされたと言ったらそれしかないんです。その背景にあるとか、それまでのまあ長い年月、いきさつであるとかは、一応ちよつとこう、あの一、捨て去ってしかちよつと判断しようがないと言いますかね。ちよつとこれあの一、非常に冷たいあれなんですけど。
457	吉井 まあ、それはかまへんねんけどな。
458	井形 まず、あのおまわりさんに捕まったときやっぱりそうでしょ、こう違反にあの一、
459	吉井 僕の日記とかあるから、
460	井形 はい。
461	吉井 それ公開してもいいよ。
462	井形 はいはい。
463	吉井 うん。あの、日記とか有効な証拠になるらしいからね。
464	井形 ええ、結構です。そしたら、まあ日記を公開されるということで、
465	吉井 うん、公開してもいい。
466	井形 で、あのね、ちよつと先生、細かいところだけちよつとあの、
467	吉井 うん。まあいいわ。先聞くわ。
468	井形 はいはい。
469	吉井 で、聞いて、で、どういう方向にもっていこうとされてるのかを、まず聞いてから判断しないとイケないですね。
470	井形 あの一、僕ね、先生、あの一、正直ね、
471	吉井 ほお。
472	井形 ちよつと先生を特任教員として、こう一、
473	吉井 うん。
474	井形 例えば江島さんとの、
475	吉井 うん。
476	井形 協議のもとで、推薦委員会、
477	吉井 うん。
478	井形 で、まあ審議してもらって、
479	吉井 うん。
480	井形 そっから教授会の議決を経て、
481	吉井 うんうん。

482	井形	理事会の議決を、
483	吉井	うん。
484	井形	経てするのが、
485	吉井	うん。
486	井形	難しいです。あの、先生ね、これあの僕は先生といろんな面ありました。 あの、もちろん意見対立する面もごめいますしね。ただ、僕は、
487	吉井	あのさ、
488	井形	はい。
489	吉井	ほんだら、あのー、そういうふうな形でやるんやったらそれで進めていったらいいやんか。 俺はね、そのー、それがほんとに二宮さんと対比してね、
490	井形	はい。
491	吉井	その問題があるのかどうかをそのー、公正な目で、
492	井形	はい。
493	吉井	で、あのあなた方の判断だけじゃなくて、
494	井形	はい。
495	吉井	教えている科目とか、
496	井形	はい。
497	吉井	そういうのをその、比べながらね、
498	井形	はい。
499	吉井	そのー、フェアにやってほしいねん。
500	井形	いや、わかります。そのね、先生ね、
501	吉井	うん。
502	井形	1つ、これ、まあ実はまだあと3つありまして、
503	吉井	うん、言うてくれていいから。
504	井形	ちょっと先生僕言いにくいところあります。
505	吉井	うんうん。かまへんかまへん。
506	井形	いやいや、じゃあ、ちょっと1点だけ申しますね。
507	吉井	うん、うん。
508	井形	えーっと、えー、この末尾に、注3、経営学特殊講義の2つの科目として、
509	吉井	うん。
510	井形	バリューエンジニアリングと環境経営論は、
511	吉井	バリューマネジメント論。
512	井形	あー、バリューマネジメント論、
513	吉井	と環境経営論。
514	井形	は不開講としますっていうことが書かれてあるんですね。
515	吉井	うんうん。
516	井形	はい。で、えーっと情報バリューエンジニアリングの講義計画に2つの経営学特殊講義の 2013年度開講予告があるが、このような科目をカリキュラム委員会を経て教授会が決定した 経緯がない、と。つまりね、先生、あの新しい科目を作る時、ここ数年は、ま、一応 カリキュラム委員会でできたものを教授会で次年度こういうことをやるのに、ちょっと先生 最後まで聞いて下さいよ。で、本人のご意向だけで科目をあのー、設定することは基本的にできない、 と。で、ちょっとそっから先なんですけど、ちょっと言いにくいんですが、あのー、 長年勤務されていて、本学の教学システムを吉井先生はご理解されてるのかという意見、 出てるんですね。つまり、自分の例えばですよ、僕で言うたら、コーポレートガバナンス来年止めて、 再来年もちますっていうのをね、例えばこれをカリキュラム委員会および教授会で一応明確にした 上でだったらいいんだけど、それをやるには、
517	吉井	これはさ、あのー、先生とカリキュラム委員、あー、カリキュラム委員長かな、
518	井形	はい。
519	吉井	なんか、あー、教務委員長かな。
520	井形	はい。
521	吉井	3者で相談をして決めるということやから、
522	井形	はい。
523	吉井	相談をする必要があるな。
524	井形	はいはい。
525	吉井	今こう one way で聞いているけれども
526	井形	ええ、ええ。

527	吉井	それであの、えー、言うてみたならば、僕は提案として出してるわけやから、
528	井形	はいはいはいはい。
529	吉井	その提案について、
530	井形	はい。
531	吉井	問題のあるところはその調整すればいいわけや。
532	井形	はいはいはいはい。
533	吉井	な、ほんで、その一、僕がその一、長年やってきてそれを全然知らないんじゃないかということではなくて、僕だって、その、あれで教務委員とかやってきとるわけやから。そやろ？そういうふうにかリキュラム委員も入ったやんか。
534	井形	うーん。たぶん、先生ね、
535	吉井	だからな、
536	井形	先生ね、
537	吉井	先生がそうおっしゃるのが、俺から見たらおかしいように思うよ。
538	井形	いや、先生ね、あの実はね、これカリキュラム委員会からのあれとそれ以外、例えば先生のことについてはね、
539	吉井	うん。
540	井形	いろんな、まあ名前だしません。いろんな方がいろんな情報を僕のどこにいらてくるわけなんです。
541	吉井	うん。
542	井形	でね、あのその一つなんですけどね、
543	吉井	うん。
544	井形	先生以前カリキュラム委員会に属されたことございますね。
545	吉井	そういうふう書いてるやんね。
546	井形	はい。
547	吉井	うん。
548	井形	で、先生カリキュラム委員会に自分に入れてもらったことがないってこと教授会で発言されているんですよ。
549	吉井	うん、僕それ、しら、これ書くまで知らんかってん。
550	井形	はい。
551	吉井	ちゅうのは、あの一、そこで役職でもって、ブラックボックスのことあったよね。
552	井形	はい。
553	吉井	あの頃から、
554	井形	はいー。
555	吉井	逆に言うと各種委員会から全部外されとるんや。
556	井形	それは何年から外されてるんです。
557	吉井	うん、それは、そこに書いとるやんか。
558	井形	はい。
559	吉井	それで、先生がその大学のいろんな
560	井形	だいたい結構です。
561	吉井	やっていないよと、
562	井形	はい。
563	吉井	いうこととか僕に発言されたでしょ。
564	井形	はい。
565	吉井	これですよ。これ。
566	井形	はい、はい。
567	吉井	で、これは北村さん、二宮さん、この執行部のときに、
568	井形	はい。
569	吉井	僕をその一、いろんな役職から、その一、えー外していったわけですわ。
570	井形	はい。
571	吉井	それは、逆に言うとね、
572	井形	はい。
573	吉井	執行部が、
574	井形	はい。
575	吉井	僕を干しているわけだわ。干しているやつをね、そのあなたがさ、逆に彼らがそういうこと言ってるからっていつてね、いうふうにもっていくちゅうのは僕は非常に大きな問題だと思うよ。
576	井形	先生、当時のかり、教務委員、

577	吉井 うん。
578	井形 カリキュラム委員会の方々は、
579	吉井 うん。
580	井形 まだ学内にいらっしやいますね。当時、先生が属されたときのカリキュラム委員会、あのー、教務委員会のメンバーは、
581	吉井 それはね、どうもね、俺なあ、
582	井形 はい。
583	吉井 あの、日記を見て、
584	井形 はい。
585	吉井 ほんであのカリキュラムをやったという記憶があるから、
586	井形 ありますね、ありますね。
587	吉井 うん。
588	井形 で、先生ね、
589	吉井 うん。
590	井形 先生ね、あー、もっと言いましょう、
591	吉井 うん。
592	井形 先生ね、
593	吉井 うん、うん。
594	井形 当時カリキュラム委員会、教務委員会に公務として、あの、まあご出席されてましたか？
595	吉井 それしてるから、日記に書いとるんや。
596	井形 そうですか。
597	吉井 うん。
598	井形 カリキュラム委員会、教務委員で先生があまりにも出席されなかったという意見は、をある方から聞いてます。
599	吉井 そんなことないわ。僕、その日記とか、そのー、出席なんかは
600	井形 はい。
601	吉井 全部してるからね。ほとんどしてるから。
602	井形 そうですか。あのー、
603	吉井 まずしてるよ。
604	井形 これね、いやいや、
605	吉井 ていうか、教務委員だったんならば、
606	井形 はい。
607	吉井 毎週その、教務委員会あるねんで。
608	井形 まあまあ、
609	吉井 だから、そんなんを僕はそのー、特別な用事がない限りね、
610	井形 はい。
611	吉井 休んだりとかそんなことしないよ。
612	井形 そうですか。
613	吉井 ちゃんと、
614	井形 特別な用事とかは？すみません。
615	吉井 特別な用事っていうのは学会とかさ、そういうふうなそのー、自分でないとだめなやつであって、
616	井形 はい。
617	吉井 そのー、僕はまず出席してるよ。
618	井形 はい。先生ね、
619	吉井 過去のやついっぺん調べてみてくれよ。
620	井形 はい。
621	吉井 俺はアカハラを受けてからはね、ほんとに
622	井形 いや、その前です。アカハラを受ける前です。
623	吉井 うん。それ、調べてくれていいわ。
624	井形 これはあの、
625	吉井 うん。
626	井形 事務局に、
627	吉井 うん。
628	井形 各委員会っていうのは、もう10年ぐらい前から出席とかいうのはきち、きちんと記されてるんですね。

629	吉井	ほんなら、それ出してくれたらいいやんか。
630	井形	はい。
631	吉井	俺は、あの一、出席した記録が日記に書かれてるからね。
632	井形	あるんですか？
633	吉井	うん。
634	井形	休まれてるという理由は、先生、な、何ておっしゃいましたか？
635	吉井	あのさ、休まれてるのは、
636	井形	はい。
637	吉井	僕は教務委員とかそれをやってるときには、
638	井形	はい。
639	吉井	その一、プライベートな用件で僕は休むいうことは、まずない、してないと思うよ。
640	井形	はいはい。どういう件ですか？
641	吉井	その一、学会とかそういうふうなことやと思うわ。
642	井形	はい。
643	吉井	いわゆる、自分の研究活動とかね、なんとかで、その一、やむを得ない時、
644	井形	はい一。
645	吉井	まさか病気は僕はしらんけどね、普通の方が考える、そういうその、えー、経営、いわゆる行動をとっているというふうに理解してくれればいいわ。
646	井形	はい、あの、まあ、ちょっとそういうことで、あの先生これがちょっと3点目で、
647	吉井	ほお。
648	井形	なんですネ。
649	井形	それで、先生ちょっと僕言いかけましたが、
650	吉井	もう全部言うてくれや
651	井形	いやいや、あのね、
652	吉井	ほお。
653	井形	先生ね、
654	吉井	うん。
655	井形	実は、まあ、これカリキュラム委員会からの見解ということもありまして、例えば先生、教授会、過去5年間、
656	吉井	ほお。
657	井形	出席状況とか先生はご存じですよ？
658	吉井	だいたいわかるわ。
659	井形	出席率の状況。で、あの一、先生自身は、
660	吉井	あのさ、
661	井形	何回ぐらいお休みになられてるかご存じですかね？
662	吉井	あの、去年は、
663	井形	はい。
664	吉井	あなた方から、
665	井形	はい。
666	吉井	やれと言われた、
667	井形	はい。
668	吉井	科目をこなすのに、
669	井形	はい。
670	吉井	僕はほとんど、その一、その講義準備に追われたよ。
671	井形	はい。
672	吉井	だから、ほとんど出てないんちゃうかな。先週、あの、去年はね、去年、去年おととしかな。
673	井形	先生？
674	吉井	それ、ちょっと待って。先言わせてくれ。
675	井形	はい。
676	吉井	あの一、1つは僕に対する責任を問うだろうけれども、
677	井形	はい。
678	吉井	いま一つは、経営学部の教授会の執行部体制。
679	井形	はい。
680	吉井	そこがどうであったのかっていうのを
681	井形	はい。

682	吉井	考えるべきだ、と思うよ。
683	井形	それも、あの一、いや一、先生ね、
684	吉井	だから僕に対する追及はやっていいけれども、
685	井形	うん。
686	吉井	その一、北村さん、樋口さん、二宮さんたちが、
687	井形	はい。
688	吉井	どんな経営行動をとってきたのか。
689	井形	はい。
690	吉井	そういうことをね、ちゃんとやっぱりあなた方も、判断して、どうして経営学部が他学部からね、
691	井形	はい。
692	吉井	その一、非常な特殊なその学部であるというふうにな、みなされるのか。それをちょっと耳傾けてくれたほうがいいんじゃないか？ それと、その一、誰だっけ、え一、門田さんという方をとろうとしたときに、北村さんが、
693	井形	はい。
694	吉井	反対したそうだな。で、その反対したのは何かというと、門田さんが、その、え一、北村、にの、え一、樋口さんのその執行部体制のときに、樋口さんのゼミ生のカンニングを取り下げさせたわけだけわ。
695	井形	はい。
696	吉井	で、それを門田さんは、けしからんと言ったんだけど、北村学部長はそのあとで、
697	井形	はい。
698	吉井	門田さんに対して、え一、適当に、え一、適正に学部として処理されたというメールをいただいたということを教授会で発表してんねん。ところが、その、門田さんが、当時の情報としてね、まことにけしからんということを書きであきらかにしてるわけだけわ。
699	井形	はい。
700	吉井	それを、逆に言うと教授会の他の先生方は知らないわけよ。 知らない情報のもとで、情報操作されてるっていうことやねん。逆に言うと。
701	井形	情報操作ですか。
702	吉井	そうです。僕から見たら、情報操作や。だから、あの俺みたいなね、
703	井形	はい。
704	吉井	その、過去の僕が言う、指摘する情報であったならば、それをいっぺんね、学部として、教授会として、
705	井形	はい。
706	吉井	その一、情報のいわゆる正確さ、
707	井形	はい。
708	吉井	を、是非を、一度当たってくれへんか。
709	井形	わかりました。
710	吉井	うん。
711	井形	じゃあ、先生ね、わかりました。
712	吉井	うん。
713	井形	先生ね、
714	吉井	うん。
715	井形	これ、特任教員は先生、
716	吉井	うん。
717	井形	に、関する問題ですから、
718	吉井	うん。
719	井形	ちょっとその北村先生、二宮先生、樋口先生等のね、
720	吉井	リンクしてんねん。あのね…
721	井形	いやいや、リンクはしてますけど、今先生、今おっしゃったでしょ。
722	吉井	うん。
723	井形	去年は出てないのは、授業が重たかった、あの一、大変やったからやと。
724	吉井	なあ、考えてみてくれ、経営情報論、
725	井形	はい。
726	吉井	情報ネットワーク論、バリューエンジニアリング、
727	井形	はい。
728	吉井	それから経営情報論、
729	井形	はい。

730	吉井	それからだいたい外書購読入れて
731	井形	はい。
732	吉井	8科目ぐらい、全部、それぞれがばらばらなんだぜ、
733	井形	はいはいはい。
734	吉井	それ、そんだけ教えてる先生いるか？
735	井形	はい、いや、私は、11科目もってました。
736	吉井	いやいや、だけど、科目のその一、類似性を考えなあかんねん。
737	井形	いや、類似性っていうのは、先生ね、科目の設定はカリキュラム委員会と先生の間で合意ができてると思うんですよ。つまりね、先生にいきなり経営組織論を教えろとか、先生に簿記・会計を教えろはないでしょ。
738	吉井	あなたの文章からみたならば、それを教えることが条件として、二部開講科目を認めてもよいとかそういう文章でしたよ。
739	井形	いやいやいや、僕が言いましたのは、二部開講科目をもっといただくというのは、一部がもてないから、一部では賄えないから、二部で、
740	吉井	いや、
741	井形	違う科目、
742	吉井	一部の科目として、
743	井形	はい。
744	吉井	その、環境経営論と、
745	井形	はい。
746	吉井	なんとかをもつことと。
747	井形	はい。
748	吉井	で、それ以外に、それをもってくださいっていう、
749	井形	いや、もつことではなく、先生、環境経営論は先生のほうから出された科目ですよ。私のほうから先生をみて環境経営論を教えてくださいはないですよ。先生が、僕に環境経営論、
750	吉井	俺、環境経営論は本当は、あの、最初、辞退しとったのは知ってるでしょ？
751	井形	いや、ちょっと待ってくださいよ。先生、僕はあの時の文章ではね、先生が環境経営論うんぬんの科目を、
752	吉井	あのさ、
753	井形	いきなり出されて、僕はそれを認めただけです。いやいや、私のほうが先生がね、
754	吉井	ちゃんとメモが残ってるよ。
755	井形	いやいや、いいです。公開してください。そしたら
756	吉井	うん。公開するわ。
757	井形	あのね、先生、環境経営論に関してはね、私のほうから先生、こんな科目もってください、あんな科目もってください、これはやったことございません。この大学で。どなたにも、先生に限らず。 (甲20より、井形発言は虚偽)
758	吉井	あのー、なんとか大学に、創価大学かな？
759	井形	はいー。
760	吉井	行かれた、えー、先生が、
761	井形	はい。
762	吉井	いろいろ動いてくださってね。
763	井形	はい。
764	吉井	僕の担当科目が少ないということで、
765	井形	はい。
766	吉井	で、その、彼もカリキュラム委員だったのかな。
767	井形	はいはいはいはい。
768	吉井	で、あなたがカリキュラム委員長だったのかな。
769	井形	はいはい。
770	吉井	なんか知りませんが。
771	井形	はい。
772	吉井	そういう状況のプロセスの中で、
773	井形	はい。
774	吉井	えー、認めてくださった科目なんですよ。
775	井形	え、認めたのは認めたんですよ。
776	吉井	うん。それは、議論して認められたんやろ？

777	井形 ちょ、ちょっと待ってください。環境経営論という科目は、僕は先生のところにもって行ってね、これを教えてくださいということはなかったですね。つまり、先生のほうから環境経営論やバリューエンジニアリングを出されて、それを我々が認めたという形じゃなかったですか。私ら。
778	吉井 あのね、
779	井形 はい。
780	吉井 俺は環境経営論とか、いわゆる公共経営学とかね、そういうのがうちの経営学部にとって重要な科目である、
781	井形 はい。
782	吉井 という、そういう話をしとったんだわ。
783	井形 はいはいはい。
784	吉井 だから、そういう話のなかからね、
785	井形 はいはい。
786	吉井 その、僕の、えー、いわゆる著書とかなんとかからみてね、環境経営論なんかを、その一、もっていいような、そういう文意の流れがきてるのが、僕の理解では、
787	井形 うん。
788	吉井 カリキュラム委員会から来てるんだよ。
789	井形 えーっと、ごめんなさい。カリキュラム委員会の中の、
790	吉井 うん。
791	井形 どなたか、僕は、ちょっと待ってくださいよ。正確に、ちょっとやってください。
792	吉井 うん。
793	井形 松田先生が、いや、先生の、あの、その一、今までの業績見られて環境経営論をもってもらったらどうですか、と言ったんですね？
794	吉井 ちょっと待ってな。
795	井形 はい。
796	吉井 うん、そうだと思います。あのー、
797	井形 つまりね、私には絶対言えてるのはね、先生に限りません、どなたかに限らずですよ、あのー、こんな科目あなたもってください、は、やったことないんです。この大学では。あのー、ですから先生ね、私が言ったうんぬんは、ちょっと先生、それは先生の、あのー、お取り違いだと思いますんで
798	吉井 そうだったかな。
799	井形 はい。
800	吉井 あのー、
801	井形 先生ね、
802	吉井 ちょっと待って、まず情報をみるわ。
803	井形 あのー、まあ、先生ね、ちょ、ちょっともう少し話進めさせていただいていいですか？
804	吉井 うん、いいですよ。
805	井形 あのー、まあ、ちょっと私がね、先生のこれを持っていくにあたってね、そうなってくると、非常にやっかいな状況で、こう進まざるを得ないというのを先生ご理解いただけますか。つまり、どういうことかというね、
806	吉井 うん。
807	井形 学部のカリキュラム委員会は、
808	吉井 うん。
809	井形 先生の、再雇用して以降の科目については、
810	吉井 うん。
811	井形 現在認めがたいというお考えなんです。あ、ちょっと読みましょうか。
812	吉井 いや、それでな、
813	井形 はい。
814	吉井 あのー、再雇用、まあ、
815	井形 えっと、ちょ、ちょっと4点目だけ読ましてください。
816	吉井 うん、うん。
817	井形 経営情報論は
818	吉井 うん。
819	井形 採用時の採用科目である情報管理論の後継科目であるが、これ正しいですか？先生、
820	吉井 情報管理論、
821	井形 論の、後継科目、
822	吉井 というよりは、経営情報論、経営情報学、経営情報学やと思うわ。

823	井形 経営情報学ですか？
824	吉井 経営情報学やと思うわ。なんか、俺が、
825	井形 ほんじゃ、先生、経営情報論って書かれてますよ。
826	吉井 いやいや、
827	井形 なんで、それで学がでるんですか？
828	吉井 そんなん、あなたが、あんたが調べてえな。
829	井形 いやいや、違う違う。先生がここに書かれてますやん。論って。
830	吉井 あのね、
831	井形 はい。
832	吉井 経営情報論というのは、
833	井形 はい。
834	吉井 その一、情報経営学かなんかだったと思うんだけども、
835	井形 これが、先生、情報、
836	吉井 情報経営学か、情報管理論の後か、情報、わかりませんよ。
837	井形 はい。
838	吉井 情報経営学かなんかそういう科目あったんです。
839	井形 あったんですか？
840	吉井 うん。
841	井形 はい。
842	吉井 で、その一、それが春学期、秋学期という形で、
843	井形 はい。
844	吉井 科目を。その一、分割しようという動きがあったんですよ。
845	井形 はいはいはい。
846	吉井 それでもって、情報経営学を経営情報論と、
847	井形 はい。
848	吉井 それから、バ、情報バリューエンジニアリングというふうにならせたの。 それで、カ、当時カリキュラム委員会が認めてくださって、
849	井形 はい。
850	吉井 で、情報ネットワーク論は、
851	井形 はい。
852	吉井 情報ネットワーク論Ⅰ、Ⅱということで認めてくださった。
853	井形 わかりました。あの一、ちょっと先生、ちょっと
854	吉井 そこ調べて。
855	井形 ちょっと先生今、話しあの一、ちょっとまだ一、で、 経営情報論を採用時の採用科目で、情報管理論後継科目であるが、経営情報学部が廃止されたに、 みられるように今日的に独立科目としての重要度が低くなっている。
856	吉井 そんなことないやろ。
857	井形 はい。それから、いや、これちょっとあの、僕の意見ではないです。あの、あれ、で、理系、 理科系の学部はあるかもしれないが、文科系学部では、ほぼなくなりつつある。で、文科系に 位置する、当該経営学部では必要とは感じられない。すでに広報として今年春からコンサルコース 科目が想定されており、また、現時点では必修科目での採用枠とすることも想定されている状況に あるということです。でね、これはね、先生ね、主観の問題なんですけど、あの一、 全般的に情報というのはやっぱり減ってございますわね。大学全般が。 学部として、で、情報の必要性うんぬんについてはね、情報の専門家にとっては非常にびっくり される。別に、これは否定はないんですけど、ただ、 こういう観点をカリキュラム委員会はもっているんですよ。
858	吉井 そういっぺん、その一、教授会でもんでや。みんなの意見を聞いてね、その、 カリキュラム委員会という特定のグループで相談するのではなくって
859	井形 はい。
860	吉井 その、教授会メンバーのそれぞれが、
861	井形 はい。
862	吉井 僕と同じようなケースになったときに、
863	井形 はい。
864	吉井 どういうふうな、え一、判断をすべきだろうかということ、
865	井形 はい。

866	吉井	で、それで、僕のほうも、
867	井形	はい。
868	吉井	その一、いわゆる、えー、僕が採用になったときの、
869	井形	はい。
870	吉井	情報とかね、
871	井形	はい。
872	吉井	そういうのを開示するわ。んで、それでもってね、
873	井形	はい。
874	吉井	その、一人のその先生の、
875	井形	はい。
876	吉井	その一、いわゆるし、死命を、死命っちゅうかね、生死を、その、決める議題になるわけや。
877	井形	先生ね、
878	吉井	だから、
879	井形	はい。
880	吉井	それをね、その一、みんなに議論して認めて、認めるっちゅうか、議論していただいて、
881	井形	はい。
882	吉井	それで、あの一、いわゆる情報を共有した上で、いろんな、その一、判断をしてもらおうと。それが僕はええと思う。
883	井形	はい。先生ね、
884	吉井	だから、情報出すわ。俺がもってる情報ね。
885	井形	いや、先生の情報についてはあれですがね、ここの経営情報学部が情報社会学部へ改組轉換されるときに、学部でもだいぶそのことについて、まあ議論というかね、そのことの話題についてだいぶやったんですよ。先生、その時教授会いらっしゃらなかったかな。
886	吉井	それはどうかしらんけども、
887	井形	うん、つまりね、
888	吉井	あの一、
889	井形	先生、やってよと今おっしゃいましたけども、既にやられていることをやってよというのは、先生やはり、危ないと思いますよ。
890	吉井	俺が言いたいのは、
891	井形	はい。
892	吉井	何かというと、今、先生がたまたまおっしゃった、
893	井形	はい。
894	吉井	いわゆる情報の科目の必要性とか、いわゆる、
895	井形	はい。
896	吉井	技術系のなにかいったやろ、
897	井形	はいはい。
898	吉井	それとおんなじような言葉が、
899	井形	はい。
900	吉井	その一、当時の二宮さんとかね、
901	井形	はい。
902	吉井	彼らから、その、僕が、その、えー、いわゆる採用にあたって不適であるというそういう文書が彼らが回してるんですよ。
903	井形	あー、ちょ、ちょっと先生ね、
904	吉井	だから、
905	井形	二宮先生とか、樋口先生、過去の、ちょっと、ちょっと今、あとで聞かしてもらいます。
906	吉井	全く同じ文書や。
907	井形	いや、ちょちょっと待ってください。僕が今言ってるのはね、向こうの情報学部さんが改組する時に、つまり、情報によるけい、教育といいますか、大学教育は、ようやくもうあの一、次のレベルの段階へ移るんだと、つまり、あの、もういわゆるあの一、1つの役割が終わったという文書を全学的に出されて、我々はそれを読んで承認してるんですよ。で、その時先生が、もしいらっしゃればね、例えば、違うんだという意見をおっしゃれば、たぶん、まあ、そう、どうなるかわかんないですよ。その時先生どうされました？
908	吉井	うーん、ちょっとわからへん。
909	井形	議論はしてるんですよ。学部で。
910	吉井	あのね、議論と言うけれども、

911	井形 はい。
912	吉井 僕は、僕の理解する範囲においては、議論は少数の方々での議論や。
913	井形 いや、ちょっと待ってください、これは、
914	吉井 公明正大に、
915	井形 公明正大ですよ、これは先生、ちょっと、
916	吉井 カリキュラム委員会とか、
917	井形 いや、カリキュラム委員じゃない、学部です。これは、あの一、北村先生による話ではなくてね、向こうの情報社会学部、あ一、情報、経営情報学部が変わるにあたって全学的なテーマになって各学部でも議論したんです。で、その時の一言はいわゆる、あの一、経営情報としての役割は終わったとおっしゃったんです。で、それを我々は正しいかどうかはわからなかったですけども、それを受け入れたんです。
918	吉井 それは経営情報学部の、その一、変遷の話でしょ？
919	井形 変遷の問題です。
920	吉井 変遷の話でしょ。
921	井形 ただし、
922	吉井 我々、その、教授会にてとったら、その話でてきとったんやんか。
923	井形 はい。
924	吉井 経営情報学部の、
925	井形 はい。
926	吉井 その一、いわゆる学生数とか、就業、就職の状況が非常に悪いからということで、
927	井形 はいはいはいはい。
928	吉井 それで、
929	井形 だから、先生ね、今ね、これを教授会、
930	吉井 ただ、それについて、例えば、経営情報論とかね、
931	井形 はい。
932	吉井 そちらのほうに対する遡及の議論、僕はなかったと思うよ。僕の出てる範囲では。
933	井形 うーん、先生、経営情報学部がなくなって、経営情報論というのは、これ、関係ないもんですか？
934	吉井 ちょっと待ってくれよ。あなたの、その情報の話では、
935	井形 はい。
936	吉井 その、経営情報学部と僕が教えている経営情報論とをリンクさせて、そのはし、あの一、話しておられるけれども、
937	井形 いやいや、そうじゃなくてね、
938	吉井 それをね、その経営、いわゆる経営学部としてね、
939	井形 はい。
940	吉井 経営情報論とか、
941	井形 はい。
942	吉井 情報ネットワーク論とか、
943	井形 はい。
944	吉井 それをどう持っていくのか、という話については、
945	井形 いやいや、だから、
946	吉井 僕は、そういう話については聞いてないよ。
947	井形 いや、だから、先生には今までもってきていただいたわけですよ。
948	吉井 そうやろ。
949	井形 うん。
950	吉井 だか、それでええやんか。
951	井形 いや、いいですけど、今後ってというのは、また話かわるでしょ？
952	吉井 うん、だから、今後かえてくかどうかっちゃうのはね、
953	井形 そうです。
954	吉井 経営、あの、じょうほ、いわゆる経営学部としてね、
955	井形 うん。
956	吉井 議論してやっていかなあかん。
957	井形 そうです。カリキュラム委員会は、
958	吉井 うんうん。
959	井形 大きな大学全体の流れ、社会的な流れからしても、いわゆる以前のような情報教育、経営情報の、
960	吉井 だから、あの、

961	井形	はい。
962	吉井	今の話では、いわゆる経営情報論とか、 そういう学科目の必要性はカリキュラム委員会ではもってないということなんですね。
963	井形	そうなんです、そうなんです。ほんでね、あの、僕ね、先生ね、ちょっと、
964	吉井	結論、それをやっていったならば、
965	井形	はい。
966	吉井	僕の持つべき担当科目はないんじゃないかというふうにおっしゃっていかうとしてるんですね？
967	井形	そうになってしまうんです。
968	吉井	うーん、
969	井形	で、僕ね、先生ね、
970	吉井	それはおかしい判断やな。
971	井形	あの、
972	吉井	あのね、1つ言えるのは、
973	井形	はい。
974	吉井	俺はね、今回の件は、
975	井形	はい。
976	吉井	その、よい、よい方向にいくか悪い方向にいくのかしらないけれども、 僕は、その一、徳永さんとかね、
977	井形	はい。
978	吉井	そういうところに、その一、情報を流そうと思ってる。相談しようと思ってるねん。
979	井形	はい。
980	吉井	はじめから。
981	井形	はい。
982	吉井	なぜかと言うとね、
983	井形	はい。
984	吉井	僕がいろいろ受けてきたときに、徳永さんがこの部屋にき、来られたんだわ。
985	井形	はいはいはい。
986	吉井	来てね、おまえのやっていることは間違っていないちゅうてね、彼は、書いてくれていいわ。あの一、
987	井形	えっと、先生がいらっしゃったのは何年ですか？その話は2000？
988	吉井	僕は、えーっと2000、えー、ごめん1997年ぐらいよ、
989	井形	1997年。
990	吉井	で、あの一、2002年の冬に、えー、北村、にの、あー、 樋口さんからいわゆる、その担当科目をどうのこうのというやつがきたわけだ。
991	井形	はい。
992	吉井	徳永先生が僕の部屋に来られてね、
993	井形	はい。
994	吉井	んで、それでもって、その一、僕の、やっている行動ちゅうのは、えー、 間違っていないということを見て、あの頑張りいうことで来られたのと、
995	井形	うーん。
996	吉井	だから、あの一、あなたが僕に対する評価とね、
997	井形	はい。
998	吉井	その一、徳永さんとかがもってくれてる評価とは僕はたぶん違うと思うよ。
999	井形	うん、まあ、あの一応、まあ、それで結構です。でね、先生ね、
1000	吉井	うん。
1001	井形	あの、まあ、5番目としてね、
1002	吉井	うん。
1003	井形	情報バリューエンジニアリングという科目ね、
1004	吉井	うん。
1005	井形	先生、これはあの、 うちに着任されてから非常にまあ先生自身が推薦されて作られた科目で間違いないですね。
1006	吉井	これは、経営、いわゆる情報経営学を、
1007	井形	はい。
1008	吉井	2つに分けた時に、
1009	井形	はいはい。
1010	吉井	情報バリューエンジニアリングという、そういうその科目をその2コマで、えー

1011	井形 やったわけですね。
1012	吉井 やらしてもらったの。
1013	井形 で、その時、情報バリューエンジニアリングという科目でやられたわけですね。
1014	吉井 そう、情報バリューエンジニアリング。
1015	井形 はいはい。ほんで、今現時点で、なぜバリューエンジニアリングという名称になっているのか。
1016	吉井 あ、情報バリューエンジニアリングですよ。
1017	井形 あー、ごめんなさいね、あー、すみません、あー、ごめんなさい、情報バリューエンジニアリングが学部の体系上必要か、も不明である、というのがカリキュラム委員会の見解です。
1018	吉井 あの一、僕はね、カリキュラム委員会のメンバーの方は、本当に経営上、経営するというところをご存知なのかどうか。例えば、先生にお聞きしたいのだけど、
1019	井形 はい。
1020	吉井 経営管理、
1021	井形 はい。
1022	吉井 の、3大手法って何かご存知？
1023	井形 経営管理の3大、
1024	吉井 経営管理の3大手法。
1025	井形 3大手法ですか？いや、先生そういうと、ちょっと僕、なんでしょう？
1026	吉井 経営管理の3大手法っちゅうのは、
1027	井形 はい。
1028	吉井 どの企業でもね、
1029	井形 はい。
1030	吉井 モノづくりだったら、
1031	井形 はい。
1032	吉井 モノづくりじゃなくてもいいけれども、
1033	井形 はい。
1034	吉井 重要にしている管理手法。それは、
1035	井形 はい。
1036	吉井 先生、品質管理とIEと、きゅ、あのVEなんだよ。
1037	井形 はい。ちょ、ちょっと待ってくださいね。品質管理と
1038	吉井 品質管理とIEとVEなんですよ。
1039	井形 IEとVE。
1040	吉井 うん。ほんで、VEの考え方というのは、サイモンさんの、
1041	井形 はい。
1042	吉井 そのシステム、の考え方あるでしょ？
1043	井形 はい。
1044	吉井 あれと非常によく似てるんですよ。
1045	井形 はい。
1046	吉井 だから、その一、いわゆる組織をイノベーションしていこうとかね、
1047	井形 はい。
1048	吉井 そういときにはVEという手法はものすごく有効なのと、
1049	井形 はい。
1050	吉井 あと、意思決定の手法として非常に有効なんです。それなぜかという、機能ということ、
1051	井形 はい。
1052	吉井 中心に考えて、
1053	井形 はい。
1054	吉井 その、顧客が求めている機能はなんだろうかと、
1055	井形 はい。
1056	吉井 それをライフサイクルにわたって最低のコストで、その一、やっいていこうと、そういうことになってきたら、
1057	井形 はい。
1058	吉井 企業価値、顧客価値が創造できるでしょ。
1059	井形 なるほど。
1060	吉井 そういふうな学問体系なんですよ。
1061	井形 先生ね、
1062	吉井 だからね、

1063	井形	はい、いやいや、内容はいいです。
1064	吉井	うん。
1065	井形	あの、これ経営管理の3大手法ですか？
1066	吉井	あの、ネットで調べてくれてもいいわ。
1067	井形	はい。
1068	吉井	出てきよるわ。
1069	井形	あの一、先生、そしたら、生産管理と経営管理どう区別されてます？ 経営管理というのは、なかに生産管理、人事管理、組織管理、財務管理がありますが、
1070	吉井	あの一、
1071	井形	先生は経営管理と生産管理はイコールですか？
1072	吉井	あの一、生産管理というのは、
1073	井形	はい。
1074	吉井	その一、いわゆる、その一、え一、付加、バリューチェーンからみたときの、そのモノづくり、 その、ただし、あの、あなたが言おうとしているのは何かわからないんだけど、
1075	井形	いや、僕が言いたいのは、
1076	吉井	生産するっちゃうのは、あなたはどういうふう考えているの、
1077	井形	先生、今経営管理の3大手法っておっしゃってね、これを挙げられました。 僕は、あの、生産管理ならば、まだ理解できるんですが、経営管理とってしまったときに、 これを3つが、その、3大手法というのは、
1078	吉井	ちょっと、先生、悪いけどな、
1079	井形	はい。
1080	吉井	ネット、ネットで、
1081	井形	いや、見る必要ないです。僕はこれでもかなりの見識を...
1082	吉井	いやいや、あなたの知識のほうが、その一、逆に言うと、
1083	井形	はい。
1084	吉井	非常に狭い。
1085	井形	狭くないです。
1086	吉井	狭いです。
1087	井形	僕は広いです。
1088	吉井	狭いです。まことに悪いけれども。その、あなたのは、やっているの、
1089	井形	はい。
1090	吉井	いっぺんあの一、その、よその、え一、会社へ行ってね、
1091	井形	はい。
1092	吉井	話しされるといいわ。
1093	井形	いやいや、したことあります。先生ね、
1094	吉井	僕はいつもやっているわ。
1095	井形	これはどなたがおっしゃってるあれですか？
1096	吉井	どなたがって、もう、我々の
1097	井形	はい。
1098	吉井	常識になってるわ。
1099	井形	先生の常識ですか。
1100	吉井	うん。
1101	井形	でも、我々が言うときはね、出所がこういう本、こういう方が言っていますというふうに 説明するんです、学生に。
1102	吉井	あの一、
1103	井形	私がつくったのもありますよ。だけど、誰かから聞いた、誰かから学んだ、 それは本のなかにあったり、何かの文献のなかにあるわけですよ。
1104	吉井	ああ、そう。
1105	井形	だから、3大手法というような言い方が、まあ、僕は生産管理の専門じゃないです。あの一、まあ、 情報管理です、ごめんなさい。先生今、生産管理って僕言いましたけどね、 情報管理を含めた生産管理かもしれませんがね。ちょっとまあ、はい。
1106	吉井	先生、悪いけどIEとかご存知？
1107	井形	IE、あの一、名前しか知りません。僕はあの、生産か、さっき言いましたように、 情報管理、生産管理はね、同じ経営管理のことは知らないできたんで、これは結構です。

1108	吉井	あのさ、俺思うけど、あの一、いろんなことを知っていて、経営を、その一、教えることが可能なんだわ。
1109	井形	はい。
1110	吉井	うん。
1111	井形	はい。
1112	吉井	だから、生産管理を知らないとかなんとか言ったら、ちょっとはその、あの一、枠組みを知ってね、
1113	井形	はい。
1114	吉井	えー、やっていく必要があると思うんです。
1115	井形	わかりますわかります。
1116	吉井	そのIEの、IEの
1117	井形	あの一、先生、すいません、僕ちょっと偉そうに言いましたけど、その、全部知っているわけじゃないんです。
1118	吉井	いや、
1119	井形	そりゃそうです。あの、先生ね、じゃあ先生あの一、フレデリック・テイラー知ってますよね？
1120	吉井	誰？
1121	井形	フレデリック・テイラー。
1122	吉井	うん、知ってるよ。
1123	井形	はい。例えば、彼の業績ってなんででしょう。
1124	吉井	それは、あの一、なにを言おうとしてるのかね。
1125	井形	いやいや、フレデリック・テイラーのご存知のことで。あの一、そりゃ全部、長々と話される必要はないんですが。
1126	吉井	それは、あの一、なにを言おうとしてるのかわからないんだけど、
1127	井形	我々の経営学では最初に教えるものがテイラー、まあ、
1128	吉井	あなたが言おうとしているのは、あれだけでも、その、科学的管理法ということを使う、言おうとしているのだろうと思うのだけど、
1129	井形	はいはいはい。
1130	吉井	その前に、高効率、高、えー、高効率、高、高賃金、というのを、
1131	井形	はい。
1132	吉井	1つの旗頭にしたんです。
1133	井形	高効率高賃金。
1134	吉井	高効率高賃金。
1135	井形	はい。
1136	吉井	それは、なぜかというとな、
1137	井形	はい。
1138	吉井	その当時の、向こうの、アメリカの、
1139	井形	はい。
1140	吉井	風土が、
1141	井形	はい。
1142	吉井	いわゆる、その一、サボタージュとかね、そういうふうな状況にあったんですよ。
1143	井形	はい。
1144	吉井	それでもって、いかにね、
1145	井形	はい。
1146	吉井	科学的な、土壌でもって、
1147	井形	はい。
1148	吉井	双方が、
1149	井形	はい。
1150	吉井	その一、繁栄することができるだろうか。
1151	井形	はい。
1152	吉井	特に彼はものすごくエネルギーを注いだんです。
1153	井形	いやいや、はい。あのね、先生、
1154	吉井	そういうふうなことにね、
1155	井形	ええ、あの一、こう、
1156	吉井	で、高効率高賃金って、いわゆるWin-Winの関係ですよ。

1157	井形 いや、わかります。私、あの一、ちょっと、テイラーの時代はね、まだあの、フォードっていうのは、それ実現した、ということで、大量生産のためにそれをね、高賃金、まあ、あの一、いわゆる低価格っていうのを実現したと。で、テイラーの時代は、ストップウォッチを計ってね、いわゆる労働者個々の課業っていうのを調べたわけですよ。で、その時に、私が言いたいのはね、先生ね、生産管理はもちろん重要な要素って僕認識しているということです。
1158	吉井 あのさ、
1159	井形 はい。あの、ですから先生ね、今お前は今新しいこれ知ってるか、いやー、そりゃもちろん例えばクオリティーコントロールであるとかね、バリューエンジニアリングとかね、ちょっとそりゃ、話ぐらいはできますよ。せやけど、あの一、先生ほど存じ上げませんがね。でもね、先生ね、今おっしゃったようにね、経営管理の3大手法、これっていうのは、先生、ちょっと僕誤りだと思いますよ。経営管理といってしまうと違いますよ。
1160	吉井 いやいや、もうそれは言われてることだわ。
1161	井形 いやいや、違います。そうは書いてません。書いてますか？ せい、経営管理の3大手法、ご覧になれますか？
1162	吉井 いやいや、ちょっとこれ、ネットは見られへんから。
1163	井形 いやいや、それ、また、プリントアウトしてください。僕はそれ、経営管理の3大手法ではないと思います。あ、もういいですいいです、先生。ただね、先生ね、僕は、先生、非常にユニークでね、いろんなことご存知なんだけれども、先生、これどうしましょう。やっぱり、うーん。
1164	吉井 あのさ、一応ね、だして行ってほしいんやわ。というのは、俺の生活もかかっとなねん。
1165	井形 生活というのは、先生なんですか？
1166	吉井 俺は飯食っていかなあかん。
1167	井形 ええーっと、先生、僕が存じ上げる限り、あの、まあ、あれですよ、年金もありますし、先生ご自宅もあるし。
1168	吉井 それはあなたが考える問題であってね、
1169	井形 はいー。
1170	吉井 俺としては、まだ働かなあかんという状況におかれておるからね、だって、俺の、俺が収入がなくなったならば僕の家収入がなくなんねやわ。だから、俺は働かなあかんねん、とにかく。だから、あと数年間ぐらいは働かなあかんという状況にあるのでね。ちゅうのは、子どもたちがまだ職をもっていないわけだわ。だから、その一、なんとか、子どもたちが仕事を就くまでは、働かなあかん、という、そういう状況にあるんですよ。
1171	井形 そうですね。
1172	吉井 あなたがたは、その、例えば科目を認めることができないとかいろいろなるんだらうけれども、
1173	井形 はあ。
1174	吉井 それはそれで出していって来てね、
1175	井形 いや、
1176	吉井 俺はさ、
1177	井形 あのねー、先生、これ科目がね、
1178	吉井 うん。
1179	井形 先生、私、ちょっと最後のとこ読ませてもらいますよ。
1180	吉井 うん。
1181	井形 吉井先生のご希望の授業計画案のほとんどは当該学部不要、もしくは必要度が低いという意見が総意であったと。で、その点から学部教学開講ルールに、まあ違反、い、違背というか、背を向けて違っており、学部教学システムの非常にそれは、まあ、あの一、ある意味停滞につながってしまうと。で、あの一、まあ正直なところですよ、あのカリキュラム委員会としては先生の科目ですね、先生はもちろん、それについては、あの、認めがたいというのが結論なんですわねー。
1182	吉井 それはきついなあ。
1183	井形 僕ね、
1184	吉井 きついなあ。あの一、
1185	井形 僕ね、いや、これね、先生ね、
1186	吉井 これさ、1つ希望なんやけども、
1187	井形 はい。
1188	吉井 その一、えー、いわゆるなんか委員会かなんか知らんけど、上部のほう、上部ちゅうのは学部のこえたところでね、
1189	井形 はいー。
1190	吉井 そういうところでは、どういう判断をするんだらうか、とかね。

1191	井形 あのねー、ちょっと私申しますとね、こういうことなんです。これ、これね、
1192	吉井 うん。
1193	井形 さっき言いかけたことでね、あの、まずね、僕と先生、
1194	吉井 うん。
1195	井形 で、まず、あの、科目を決めるんですね。
1196	吉井 うんうん。
1197	井形 まあ、ここで決める言うたときに、カリキュラム委員会というのは通例、先生に限らずどなたが来るとき、
1198	吉井 うん。
1199	井形 それから、特任という形に、
1200	吉井 ほおほお。
1201	井形 その、再雇用するときには、一応、
1202	吉井 ほお。
1203	井形 先生の科目はこれだということで、
1204	吉井 ほお。
1205	井形 例えば、主要科目これとこれをもってもらって4コマだって決めますね、今、あの、決めるでしょ。
1206	吉井 うん。
1207	井形 カリキュラム委員会で、この段階で今ひっかかっているわけですよ。そしたらね、仮に先生がそうおっしゃられて、いや、この科目でやるんだという形で、まあ、江島先生、教務委員長と話しますね、 (この辺りの井形発言は全て虚偽説明)
1208	吉井 はいはい。
1209	井形 で、江島先生も一応これで、つまり、あの、カリキュラム委員会は反対なんだけど、江島先生、これで吉井先生、望まれてますよという形で、
1210	吉井 うん。
1211	井形 いや、僕と江島さんは推薦委員会、これは、あの各学部長および、まあ、教務関係のトップがはいってやる委員会を開きます。で、そこで問題なく通ればですよ、次、教授会でこれを審議、審議するわけですね。ここでは、当然3分の2ですか、の、
1212	吉井 いや、3分の2か、私は知らんけどな。
1213	井形 はい、あの一、たぶん3分の2だと思うんですけども、あの、教授会で、あの一、つまり、あの一、新しい先生をお招きするという形ですから、3分の2なんですね、あの一、いわゆる、えー、採用可否と同じことをやるわけです。
1214	吉井 うん。それでな、
1215	井形 はい。
1216	吉井 あの一、重要なのは、
1217	井形 はい。
1218	吉井 その一、二宮さんのとき、
1219	井形 はい。
1220	吉井 と、同じように進めてくれたらいいわけなんだわ。
1221	井形 いやいや、今、同じですよ。
1222	吉井 うん、二宮さんの時は、その一、お隣の先生方もね、もう何にもなかったいうてね、
1223	井形 お隣っていうのは？
1224	吉井 お隣っていうのは、池ちゃんだよ。
1225	井形 池ちゃんって？
1226	吉井 池ちゃんって、池野先生。
1227	井形 あー、池野先生か。
1228	吉井 池野先生とか、
1229	井形 はい。
1230	吉井 山田文明さんとかもそうだわ。
1231	井形 はい。
1232	吉井 議論とかそんななくなって、北村さんが、えー、特任、えー、教員として、なんとかで、はいはいシャンシャンで終わったよーいうて、何も、その一、教授会で議論してないわちゅうて。んで、俺、教授会の議事録を見に行ったらけれども、わずか2行や。
1233	井形 はい。
1234	吉井 うん。で、俺の出してる状況とね、なんとかと比較しようと思っても情報何にもない。
1235	井形 はい。

1236	吉井 だから、俺から見たならば、同じようにさえやっといってくれたら、それと僕は、その、著書も出しているわけやしね、その一、なにもその一、え一、排、その一、え一、その一、なんとかをするそういうふうな理由はないと思うよ。
1237	井形 先生、著書というのは、先生、この一、VEハンドブックですか？ハンドブックですか？
1238	吉井 VEハンドブック、これぐらいの分厚い本や。
1239	井形 はあはあ。
1240	吉井 これのうちの一部や。
1241	井形 いやいや、これ先生一人で書かれたんですか？
1242	吉井 違う違う。そこに書いとるやんか。ページ数、俺が分担したページ数そこに書いとるやんか。147から152ページ。こうやってね、
1243	井形 これは、
1244	吉井 これは、サステナビリティ、これや。
1245	井形 はあはあ。
1246	吉井 サステナビリティのこれで、約50ページぐらい、75から130、これが僕が書いた文章ですよ。第3章ね。
1247	井形 はい、はい、はいはいはい。
1248	吉井 最初かなんかしらん、このへん全部そうやる。
1249	井形 はいはい。
1250	吉井 俺書いたやつやん。な、だから、これは、
1251	井形 ちょっとこれ拝見させていただいてもいいですか？
1252	吉井 うんうん、いいよいいよ。
1253	井形 うーん。
1254	吉井 だから、あの一、俺から言わしてもらたらね、
1255	井形 はいー。
1256	吉井 その一、え一、第一次基準である、それについてはね、
1257	井形 はい。
1258	吉井 条件を満たしておるはずなんやわ。な、そこで落とすはずはない。だから、あと、カリキュラムとかなんとかいうやつはね、
1259	井形 はい。
1260	吉井 それは、経常的にそれを、あの、やってくだされば、そ、その、そんなにその、僕の首をとるとかいう、そういう発想でなかったらね、
1261	井形 いや、首をとるじゃなくて、
1262	吉井 今まで、けどその…
1263	井形 いや、再雇用です。再雇用になるかどうかいうところが、
1264	吉井 だから、再雇用の判断はね、その一、理事会とかそちらのほうでやってくれたらいいやんか。理事会が最終決めるわけやろ。だから、通常認められている条件のやつを出していただいてね。
1265	井形 いやいやー、
1266	吉井 ね、
1267	井形 まあまあ、あの、先生、ありがとうございます、いや、あのね、先生ね、これ規程に、
1268	吉井 今だったら、先生のあれだったらね、
1269	井形 はい。
1270	吉井 もう初めからから却下するというふうな、そのいわゆる科目も必要性がないんだとかね、いうふうな形でもって、
1271	井形 いやいやいや、あの一、はっきり申します。あの一、
1272	吉井 うん。
1273	井形 持っていくのに難しい状況にあるというのが事実です。つまりね、あの一、
1274	吉井 うん。
1275	井形 仮にね、先生ね、ちょっと僕も今日、先生まあまあ、先生おっしゃったの、
1276	吉井 うん。
1277	井形 僕も、あのね、僕は先生はよい先生だと思うし、嫌いな先生ではございません。あの、いくら対立してもね、ところがね、僕、これを持っていくときに、その、まあ、仮に、推薦委員会、教授会、場合によったら理事会、
1278	吉井 もっていってくれや。
1279	井形 いろんなところで、
1280	吉井 ほお。

1281	井形 あのー、まあ、ま、特に教授会はそうです。3分の2っていうのはね、先生ね、今うちの状況からしたら、15名が反対、25名が賛成、あー、15名じゃだめなんですよ。 あー、ちが、ごめんなさい、15名が反対しちゃうと、もうアウトなんですよ。 (この辺りの井形発言は全て虚偽説明)
1282	吉井 あのー、さ、あのー、いわゆる、えー、藤澤先生、
1283	井形 はい。
1284	吉井 も、
1285	井形 はい。
1286	吉井 そのー、いわゆる北村先生と何とかそのー、えー、樋口さんの、
1287	井形 はい。
1288	吉井 あれで、
1289	井形 はい。
1290	吉井 僕が名誉棄損で訴えられていたときに、
1291	井形 はい。
1292	吉井 その、名誉棄損にあたらないという判断を藤澤さんとOH課長がやったわけだわ。 で、そのー、それで、えー、OH課長は、
1293	井形 はい。
1294	吉井 その、北村理事と高橋理事の2人によってね、
1295	井形 はい。
1296	吉井 そのー、翌日から大学に来るに及ばないということで強制的に退職に追い込まれた。 それは先生ご存知やる？
1297	井形 えー、ちょ、知りません知りません。藤澤さん、それうちの藤澤さんですか？
1298	吉井 うん、そうだよ。
1299	井形 藤澤さん、
1300	吉井 人権委員長であり、
1301	井形 人権委員長、
1302	吉井 調査そのー、調査委員会、委員会の委員長やってん。
1303	井形 へー。
1304	吉井 で、それで、そ、その時のあれが、そのー、伊藤先生っていうのが組合の委員長やっててんわ。
1305	井形 はあ、はあ。
1306	吉井 で、伊藤先生が夏ずーっと動いてね、
1307	井形 はい。
1308	吉井 それで、その大畑さんという課長さんをなんとか救済しようと思って、努力したんだけど、
1309	井形 はい。
1310	吉井 まあ、あのー、力及ばずで、えー、その、退職になってしまった。
1311	井形 えっと、先生、これ伊藤先生って、
1312	吉井 これ、先生知ってるやる？
1313	井形 いや、知らない。
1314	吉井 これ、伊藤正之さんやん。
1315	井形 正之さん。
1316	吉井 伊藤正之さんの、そのー、いわゆる昇格人事を渡辺学部長と後藤先生がね、もう6月ぐらいからね、 そのー、なんとか、えー、昇格させようと思って努力していて、そのあのー、 主査になっていたのが樋口さんやで。
1317	井形 うん。あー。
1318	吉井 樋口さんが12月になんとかだっちゅうことで降りて、でー、 非常に困ったという状況が起こるとるやろ。そういうふうな状況から見た時にな、
1319	井形 あのー、
1320	吉井 客観、ちょっと言わせてね、
1321	井形 ええ。
1322	吉井 客観的に見た時にね、北村さんたちの動きというのは、ね、
1323	井形 はい。
1324	吉井 そのー、非常に偏った動きをしてるんですよということを理解してほしいねん。
1325	井形 うーん、いや、あの、先生ね、あの、仮に、まあ、先生が、
1326	吉井 もう少し言わせてくれ。
1327	井形 はい。

1328	吉井 んで、藤澤先生に北村さんが怒鳴りこんだらしいんだわ。で、藤澤先生は担当科目が欠落してきてね、それで、その一、いわゆる教職科目、で、法律かなんか知らないけれどね、それを、えー、持てるようにということで彼は一生懸命動いて、で、教職の科目を持ったという、そういうその、事実があるんだよ。
1329	井形 はい。あのー、えー、
1330	吉井 いっぺん、あの、それもあのー、ちゃんと証言あるから、
1331	井形 いやね、先生そしたらね、
1332	吉井 うん。
1333	井形 例えば、うち学部内でね、
1334	吉井 うん。
1335	井形 先生がまあ特任、まあ仮の話ですよ、
1336	吉井 うん。
1337	井形 これ教授会までいった場合に、例えば、先生に特任ということで、
1338	吉井 うん。
1339	井形 明確に先生にご賛成する方、っていうのは、なにか、先生、例えば藤澤さんなんかはそうですか？一応、
1340	吉井 あのね、
1341	井形 賛成してもらえますか？
1342	吉井 そら、賛成してくれると思うけどなあ。ちょっとな、
1343	井形 うーん。
1344	吉井 あのー、まず俺が、その一、特任教員として
1345	井形 うーん。
1346	吉井 その、好ましくない、えー、か、どうかっていうことだけでも、
1347	井形 うーん。
1348	吉井 僕なりの文章を書きわ。ほんで、それで、あ、文章っちゅうのは、
1349	井形 文章っていうのは？
1350	吉井 あの、いわゆる、その情報がないところでね、その一、判断されても、
1351	井形 うーん。
1352	吉井 その一、いかんと思うねん。
1353	井形 ただ、先生ね、
1354	吉井 だから、情報は提供させて。
1355	井形 いやいや、ちょっと待ってください。
1356	吉井 うん。
1357	井形 情報に関してはこれだけなんですよ。
1358	吉井 いやいや、そうじゃなくて、その一、
1359	井形 それは先生、陳情書か何かになります？
1360	吉井 陳情書？
1361	井形 いやいや、つまり、なんかお願いするという文章ですか？先生がおっしゃってるのは、先生が文章を書かれるというのは、え、今おっしゃった文章とういのはね、誰に対して何を、
1362	吉井 あ、あのー、
1363	井形 はい。
1364	吉井 あのー、経営学部の学部教授会のメンバーの方に、
1365	井形 はい。
1366	吉井 その、僕が特任教員としてふさわしくないかどうかを、
1367	井形 はい。
1368	吉井 判断してもらうのに、
1369	井形 はい。
1370	吉井 必要な情報、その、あのー、不具合なやつは除くよ、その一なんとかがんとかか言ったやつは除くんやけども、
1371	井形 はい。
1372	吉井 えー、こういうふうなことでやっているとかね、
1373	井形 はい。
1374	吉井 いうふうな、そういうその、僕の教育の、えー、やり方とかさ、そういうのを理解してもらって、それで評価してもらおう。
1375	井形 うん、でもね、先生、仮にその部分が

1376	吉井 うん。
1377	井形 仮に評価されたとしても、
1378	吉井 うん。
1379	井形 先生、実際教授会でね、まあ、可か否か、白かと言われた時に、あのー、先生、あのー、どうでしょう。ほんまに、それで、
1380	吉井 俺なあ、
1381	井形 はい。
1382	吉井 僕の場合思うんだけど、
1383	井形 はい。
1384	吉井 可か否かということだね、
1385	井形 はい。
1386	吉井 その人事案件でもってね、
1387	井形 はい。
1388	吉井 そのー、人が、えー、なんとそのときに、その否とかすることは、まずほとんど無いよ。
1389	井形 えー、でも、先生ね、
1390	吉井 だから俺が否になったら否でええやんか。んでね、あのー、前に話したと思うんだけど、西口先生、**（現職教員でもあり、削除しているので聞き取れないはずですが）さんにセクハラされた人なんだけれども、あの教授会で初めてね、その担当科目を持たさないという投票で、んで彼女は辞めていったやんか。
1391	井形 んー、あー、そうでした、
1392	吉井 俺前話したと思うけど。それぐらいや、
1393	井形 いやいや、あのー、だからね、過去のね、いやいや、今で、
1394	吉井 だから過去のようにして同じメンバーが控えてるわけだから。
1395	井形 いや、僕言うてるのはね、
1396	吉井 うん。
1397	井形 先生、仮に、仮の話ですよ、
1398	吉井 うん。
1399	井形 仮にこれ推薦委員会が、一応じゃ、
1400	吉井 うん。
1401	井形 教授会に預けて、
1402	吉井 うん。
1403	井形 やるような状況の時に、教授会で、3分の1をとらないと、あー、3分の2をとらないけませんね。
1404	吉井 3分の2か。
1405	井形 はい。
1406	吉井 過半数か。
1407	井形 過半数じゃないです。3分の2です。 （この辺りの井形発言は全て虚偽説明）
1408	吉井 あ、そう。
1409	井形 そしたらね、反対の者が15名でアウトになるんです。
1410	吉井 あのさー、俺思うんだけど、
1411	井形 はい。
1412	吉井 あのー、俺ってそんなに、そのー、悪い人間か？
1413	井形 先生ね、そうじゃなくて、先生ね、あのー、特任っていうことをやる時にね、先生ね、僕も経験したんですけどね、いい先生だと、まあ、前任大学で辞めていただかなきゃいけないとか、お辞めにならなきゃいけない理由があるんです。いいから、残せるっていうもんじゃないと思うんです。
1414	吉井 いやー、それはそれでもいいんだけどね、
1415	井形 はいー。
1416	吉井 そんなに、俺って問題のある教員だったのかな。
1417	井形 いや、先生ね、僕は、先生ね、先生そうとらえるのは、ちょっと僕非常にあれなんですけども、ただ現状でこういう文章がありーの、そして、これからまあ、これをもっていくのに、僕ね、先生に恥をかかせるようなこと嫌なんですよ。
1418	吉井 いや、そら恥かいてもええわ。
1419	井形 いやいや、

1420	吉井 ほんまに。恥をかいてもええ。というのは、僕はね、経営学部の教授会を見ておって、その一、北村さんたち、二宮さんたち、名前を出して悪いんだけど、彼らがやってきたマネジメントというのは、僕は経営学、経営を教えるという教員からみたときに、
1421	井形 はい。
1422	吉井 非常に好ましくない、そういうマネジメントをずーっとやってこられた、ちゅうのは、僕は、あの一、強く持っているんだわ。
1423	井形 はい。
1424	吉井 だから、あの一、逆に言うと、えー、そういうふうなことを、つまり、経営学部の教授会というのは、他の民間企業もそうだけでも、経営の模範となるような教授会であるべきだ、
1425	井形 はい。
1426	吉井 というのが僕の主張やねん。
1427	井形 はい。
1428	吉井 それから見た時に、
1429	井形 はい。
1430	吉井 例えば、彼らは、文書で残すなどかね、ていうようなことをずっとやってきてる方々なんだわ。
1431	井形 うーん、はいはい。
1432	吉井 だからね、
1433	井形 はい。
1434	吉井 俺が言いたいのは、彼らが、その一、今の多くの方々の採用人事とかそれをやってきている、だから多数決でやったら、僕は落ちるかもしれない。それでもね、ちゃんと、その一、えー、判断をして手続きを踏んでくだされば僕はいいと思ってんねん。
1435	井形 先生、
1436	吉井 うん。
1437	井形 僕はね、
1438	吉井 うん。
1439	井形 あらゆる投票、まあ僕の立場ですわ、あらゆる投票は皆さんが可で通ってくれることを望みます。ちょっと、場合によったら、この人は否だけどということ、ちょっと、できたらやりたくないんです。
1440	吉井 その前にな、俺が、その一、否になるような要因ってそんなにあるんかいなって俺は思うんやけどな。
1441	井形 1つ、先生ね、聞いて下さい。 あの一、いいですか、今ね大事なものは、先生の特任をこのままもっていくのが難しく、ですよ、
1442	吉井 ほお。
1443	井形 今、できたら先生にお願いしたいのは、できたらご辞退願いたいということです。
1444	吉井 それはするつもりはない。まことに悪いけれども。
1445	井形 そうですか。
1446	吉井 その、その一、悪いけれども、えー、努力をしようと思ってるんだわ。
1447	井形 で、しかし、
1448	吉井 うん。
1449	井形 先生、そうなる、
1450	吉井 うん。
1451	井形 今私が懸念しているようなことが起こりうる、
1452	吉井 それはもう出てきてもいいんじゃないか。もう、かまへんよ。
1453	井形 そうですか。
1454	吉井 あの一、全部出てくれて結構や。
1455	井形 それ非常に僕ね、
1456	吉井 うん。かまへんかまへん。
1457	井形 心苦しいですねー。
1458	吉井 いや、それはいいです。ちゅうのは、僕はいつも、その一、自分なりに公明正大に生きてきたつもりやねん。だから、それを否定されるのは、その一、僕のあの一、立場ではないわけやから。
1459	井形 そうじゃなくて先生、今回大介先生もご辞退されてますよね。ま、理由は違いますよ。
1460	吉井 あの一、大介さん、あの一、その一、さ、個人的な状況は横においとこうや。
1461	井形 え、
1462	吉井 個人個人の情報、あ、理由は、
1463	井形 いやいやいや、理由は、まあまあ、ごめんなさい。あの一、先生ね、決して
1464	吉井 僕は、

1465	井形	いや、だから、だからということで、
1466	吉井	僕は、
1467	井形	先生が自分でご辞退されても、
1468	吉井	うん。僕は辞退するという理由はないんです。僕自身はね、僕はまだ働こうと思ってるから、辞退する理由はないの。 だから、その一、システムにのっけていただいて、拒否するなら拒否していいじゃないの。
1469	井形	んー、それって、
1470	吉井	かまへんですよ。で、僕はあの一、ちゃんとそういうシステムが、うー、正しく運用されているならば、それはそれでいいというふう思うからね、
1471	井形	でも、先生、それすごい悲しいです。
1472	吉井	かまへん、俺は。僕はかまへんわ。というのは、この前のそのかり、あの一、教授会でもそうんか。藤嶋君かなんかで、カリキュラムの問題で、彼が、あのおとなしい先生が発言したやんか。
1473	井形	はい。
1474	吉井	な、それはなんでかということ、そういうふうな、その一、うちの学部特有のね、プレッシャーというものが僕はあるんやと思っとるねん。 だから、そのプレッシャーを取り除く責任というのが僕たち教授職、とかに、あるはずなんだわ。 ところが、北村グループというのは、ものすごく結束しててね、それで、その一、えー、いわゆる、その明快なそういうふうな行動がとられていないと思う。 つまり、改革しゃんなあかんの、改革できてないねん。俺からみたら。
1475	井形	あの一、先生ね、
1476	吉井	うん。
1477	井形	まず1点ね、
1478	吉井	俺、うん。
1479	井形	先生、持って行ってくれ、なんですけど、
1480	吉井	うん。
1481	井形	これ事実上難しい可能性があるんです。
1482	吉井	だから、かまへん言うてんねん。
1483	井形	例えばね、先生聞いて下さいね。
1484	吉井	うん。
1485	井形	先生今、こうやってカリキュラム委員会からに関しては、先生についてはつまり、特任教授として、教員としてこういう科目をもつのは、つまり、ま、あの、認められないとでましたね。で、これを僕、江島さんにこのこと言いますね。
1486	吉井	うん。
1487	井形	江島さんと2人して、じゃ、推薦委員会出すのは辞めようという結論も1つの方法なんですよ。 (この辺りも新規程に反する井形の虚偽説明)
1488	吉井	だから、俺な、
1489	井形	はい。
1490	吉井	あの一、いわゆる、その一、経済大学の、
1491	井形	はい。
1492	吉井	教員として、
1493	井形	はい。
1494	吉井	それ、あの一、ふさわしくないのかどうかというのを、
1495	井形	はい。
1496	吉井	僕は別の判断をしてほしいなと思とんねわ、それで、
1497	井形	別の判断とは？
1498	吉井	うん、別の判断っちゅうのは、いわゆる条件を満たしているかどうか、
1499	井形	うん。
1500	吉井	そこの、表向きの条件な。
1501	井形	はい。
1502	吉井	を、まずやっていただいてね、んで、僕が経営学部でいるんな、あの一、もうずーっと10年にわたってアカハラを受けてきたというのはこれは事実やと思とんねん、僕からみたらよ。
1503	井形	でも、事実でないという方もいらっしゃるね、先生、
1504	吉井	そら、そら、攻めてるほうはそういうふうにおっしゃるわ。
1505	井形	まあまあ、先生、ほんでね、問題はね、先生ね、
1506	吉井	うん。

1507	井形	せっかく先生特任にご、あの、まあ、あの、されるのであれば、当たり前のことですが、我々はなっただけ方向ってのが一番望ましいの、ご理解いただけますね。
1508	吉井	そりゃそうや。
1509	井形	ところが、それが、まあ今回のケースのような場合ね、 なっ、なっただけのに、学部の、その一、例えばですよ、あの一、投票でね、その一、
1510	吉井	あのさ、
1511	井形	採用されないというのが非常につらいんです。
1512	吉井	それはそのように落としてくるのも、いいじゃないの。というのは、その一、あれは誰だっけ、吉垣君か、
1513	井形	はい。
1514	吉井	彼が教授の申請をして辞退したやろ。
1515	井形	はい。
1516	吉井	あれも言うてみたならば、 教授職の何名かが反対するだろうという、そういう要因もひとつあったんやわ。
1517	井形	うん、かもしれせんね。
1518	吉井	だから、だから、言うてみたら北村グループに睨まれてしまったならば、
1519	井形	はい。
1520	吉井	認められないということをはわかって辞退してん。で、その後、えー、1月かそこらね、 今教授になっているけれども、その一、話が突然きて、んで、いっこったわけだわ。 だから、僕が言いたいのは、
1521	井形	うーん。
1522	吉井	昇格人事とかなんとかいっても、北村さんと言うフィルターがかかって、
1523	井形	はい。
1524	吉井	それで認められたならば、特任なっていくというケースやわ。
1525	井形	うーん。
1526	吉井	それは、逆に言うと、今の教授に昇格された人でもね、条件がまだ問題があるんじゃないかとい ったような方も、逆に言うと、二宮さんがもう広告かなんかに教授って書いて作っておるんや、 というてね、教授会で言うてたじゃない。それで認めてくれと、そういうのあったやろ。
1527	井形	うーん、あの一、先生、うーん、わかりました。 あのね一、ただ、先生がそのまま持って行ってくれとね、
1528	吉井	うん。
1529	井形	このまいうのは、推薦委員会を開いてかけるまでが、ちょっと私自身まだ困難なんです。 そこでまた、通過して、教授会で否、可か…
1530	吉井	それでな、ちょっとな、
1531	井形	はい。
1532	吉井	俺が本当にお願ひしたいのは、僕の書いたその条件ね、
1533	井形	はい。
1534	吉井	ね、カリキュラム科目をもつのか、それは横においといて、
1535	井形	はい。
1536	吉井	その、いわゆる、その一、権利として与えられている条件を、
1537	井形	はい。
1538	吉井	満たしているか、満たしていないかということでもってね、
1539	井形	はい。
1540	吉井	推薦委員会のほうから出してくださればいいじゃないか。
1541	井形	それはできないでしょうねー。
1542	吉井	なんでできないの？
1543	井形	つまりね、学、私と先生とで合意ができているということが、これ条件になっていますね、 (この辺りも偽装した新規による井形の虚偽発言、甲3)
1544	吉井	あのね一、
1545	井形	その、ごう、合意の条件っていうのは、 カリキュラム委員会というね、次年度以降の科目をつくるのをいれて合意なんですよ、 先生、あのね、それを除いて私、先生これでいいじゃないですかちゅうわけにはいかないんです。
1546	吉井	俺今度教授会で発言さしてもらおうからさ。
1547	井形	結構、結構です。
1548	吉井	あの、当然今ので、
1549	井形	はい、はい。

1550	吉井 えー、あの、僕が言いたいのは、
1551	井形 はい。
1552	吉井 ね、僕のケース、
1553	井形 はい。
1554	吉井 それから僕のあとに続く先生方のケース、
1555	井形 はい。
1556	吉井 そういうのを踏まえておいて、
1557	井形 はい。
1558	吉井 いわゆる、その、どうい、その、前例を作っていったのか、というのが、
1559	井形 はい。
1560	吉井 これが経営学部教授会の努力やと思うねん。
1561	井形 はい。
1562	吉井 公正さという意味のね、
1563	井形 はい。
1564	吉井 だから、その努力の一步として、
1565	井形 はい。
1566	吉井 僕が不的確やったら、不的確で、
1567	井形 はい。
1568	吉井 その、投票で落としてもいいからさ、そういうふうな手順を踏んでください、というのが、僕の希望やね。
1569	井形 先生のおのの見解ですよ、
1570	吉井 そう。
1571	井形 僕の、ほうはね、
1572	吉井 うん。
1573	井形 そこまでの手順を仮に踏むにしても、そこまで行くのもかなり、つまり要件としては大変、なんです。そこまで行くまでもね、で、仮にそこまで行っても、その結果がね、仮に、その一、まあ、わからないですよ、
1574	吉井 あのさ、結論、
1575	井形 はい。
1576	吉井 あのー、これ、議論してもしょうがないから、
1577	井形 はい。
1578	吉井 とにかく、出してだめだったらそれでいいじゃないの。な、俺が恥かいてもいいやんか。吉井君が恥かいてもええちゅうふうに言うとなねんからさ、だから、投票で落としてもええやんか。
1579	井形 いや、あのー、先生ね、
1580	吉井 うん。
1581	井形 教授会レベルでは、そ、そういうことですね。今言うてるのは教授会まで出せない、あのー、推薦委員会、
1582	吉井 推薦委員会まで出せないといことだけど、
1583	井形 はい。
1584	吉井 僕、推薦委員会で要求されてる条件は、僕は満たしていると思ってんだわ。
1585	井形 あー、先生はですね。
1586	吉井 僕は満たしてるし、
1587	井形 うん、満たしていなかったら、
1588	吉井 だから、第3者もたぶんそう思うと思うよ。普通の人であれば、
1589	井形 じゃあ、もうこれで話、今日は終わらせてください。それでね、先生ね、決してね、あのー、僕、変な話、先生のね、恥かかしてまでっていうのが僕はどうもー、
1590	吉井 悪いけども、俺恥かいてもいいです。悪いけども恥かいてもいい。ほんで、あのー、僕自身、この、この大学に来て、ここを最後の職場にしようと思って、自分なりに頑張ってきたんやわ。頑張ってきたん、その、アカハラやられてる時でも、僕は、その一、えー、いろんな役職とかそういうのは、その一、自分ではその、大学のほうにはできないけれども、教育だけは学生に対して、よいサービスをしようと思って、ずーっと努力してきたん。だから、その一、あれだよ。あのー、土日でも、その、えー、朝の9時から10時ぐらいから5時までね、その一、勉強会をやって、VEリーダーの資格をとらせたり、
1591	井形 そういうことは、わかりました。あのね、
1592	吉井 あれ、なんだっけ、あのー、大木先生という方がいたんだわ。

1593	井形 はい。
1594	吉井 それと、えー、誰だっけ、あの広島大学の大学院に行った子、
1595	井形 あー、いるんですか。はい。
1596	吉井 で、その子たちの時の教授会というのは、もう、にの、えー、樋口さんが大木先生をもう1年か1年以上、
1597	井形 はい。
1598	吉井 もう延々とその、攻め続けるんだよ。
1599	井形 はい。
1600	吉井 そんな状況の中で、
1601	井形 はい。
1602	吉井 その、入ってきた若い先生がね、
1603	井形 はい。
1604	吉井 その一、うちの経営学部を見限って辞めていくのは当然やと思うわ。
1605	井形 わかりました。その大木先生とは、大木先生とは何もしてないのに、いじめられたんですか？
1606	吉井 大木満先生。
1607	井形 はい。
1608	吉井 その、その時は学生委員やってん。
1609	井形 学生委員ですけども、その方は何も、きちんとやっておられていじめられたんですか。
1610	吉井 そらもう、きちんとやっておられたまじめな先生だよ。
1611	井形 ああ、そうですかー。
1612	吉井 そら一、もうまじめな先生だよ。
1613	井形 僕その事実、まあ、もういい、書きませんがね、
1614	吉井 あのね、俺も、あの、人間科学部の学部長をやった人や。副学長もやったやん。
1615	井形 ふーん。
1616	吉井 その彼が俺のところに来てね、その一、例えば、入試問題のあれから外れろとね、それはなぜかという、北村、二宮、樋口というのが、僕のミスを狙っているからいうてね、で、その一、経済学部の学部長、斉藤さんも、その時そうや、それ、俺に入試問題の作成委員から外れろ言うて、この部屋に来てくれたんや。だから、北村さん、二宮さん、樋口さんという方のね、その一、行動というものはうちの経営学部の外部がよく知ってるはずや。
1617	井形 仮にですけどね、先生、僕努力してみます。
1618	吉井 うん、頼むわ。
1619	井形 あのね、努力するというのは先生に特任になれるように努力まで行かないかもしれませんが、まず、推薦委員会にあげますが、もし、推薦委員会に僕あげれなかったら、先生、教授会で僕を攻撃してください。もっというと、訴えてください。もし、あげれなかったらね、僕は努力しますけど。
1620	吉井 ちょっと待ってーな。
1621	井形 はい。
1622	吉井 あのー、
1623	井形 僕をやってください。
1624	吉井 いやいや、そんなんはね、
1625	井形 はい。
1626	吉井 あのー、その前に、俺はその一、あれ、したいのはね、その一、なんで推薦委員会、
1627	井形 あのー、やれないんじゃないですよ、やってみて、いや、やろうとしてみて、その推薦委員会が開かれない場合は、ということです。つまり、今の状態、
1628	吉井 つまり、僕が推薦委員会のメンバーに入らない場合はということか？
1629	井形 いや、推薦委員会というのは別にあるんです。各学科の学部長が集まって、というふうにかがってます。
1630	吉井 ふーん。
1631	井形 ただね、推薦委員会に上がる方というのは、さっきも言いましたけども、こういうのが出ない状態であがっていらっしゃるらしいんです。この方科目持つのはどうかとか、
1632	吉井 あ、そういうそのフィルターがない状態でね、
1633	井形 うん、フィルターがない状態というか、まあ、そんな何か問題点が指摘されない状態であがった人が推薦委員会で通るということで、で、今回はそうじゃないわけですから。
1634	吉井 推薦委員会の前にこんだけもめてんだものね。
1635	井形 そうです。私はね、先生ね、

1636	吉井	でも俺な、公正にやってくれたらええねん。
1637	井形	公正。
1638	吉井	公正っちゅうのは、
1639	井形	まあまあ、公正のつもりなんですけど、これも。
1640	吉井	いやいや、あの一、二宮さんと、の、その一、え一、進め方とおんなじようにやってくださったら、俺そんなに二宮さんと差あるか？
1641	井形	いや、二宮先生と同じようにやっています。僕ら、
1642	吉井	俺から見たら、こんなにもめるっちゅうことが信じられへんのやわ。二宮さんのときは、何にもなかった。はい、シャンシャンで終わったよ、言うてね、お2人おっしゃってるわけや。
1643	井形	うーん。
1644	吉井	だから、その、シャンシャンで終わらずに、なんでこんなに先生とね、議論を闘わさなあかんような、
1645	井形	うーん。
1646	吉井	そんな問題なのかなあという、そこになにか別の枠組みがあるんじゃないか、
1647	井形	僕が問題なんじゃなくて、カリキュラム委員会が、
1648	吉井	だから、北村さんがやんか、
1649	井形	うーん、まあ、
1650	吉井	俺からみたら、
1651	井形	まー、でもねー、先生鳴りましたね、じゃあ、先生ね、
1652	吉井	うん。
1653	井形	じゃあ、先生おっしゃるように、その、まあ、 教授会、理事会まであがれるようには、努力してみますが、ただし、
1654	吉井	僕の生活かかっとなねん。ほんとに。
1655	井形	だか、その、生活かかってるっていう理由っていうのはやっぱりちょっと
1656	吉井	いや、それは、あなたが言う必要ない。
1657	井形	うーん、はいはい。ただ、事情はわかりました。
1658	吉井	働かなあかんという状況にあるからね。
1659	井形	事情はわかりました。あの一、これはやります。
1660	吉井	うん。
1661	井形	で、先生ね、あの一、今も先生奈良から通ってらっしゃるでよろしいですか？
1662	吉井	当然そうやんか。だって、大学のルールにしたがって、
1663	井形	いやいや、
1664	吉井	そっからその時点からずーっと奈良から通ってんだもん。
1665	井形	うーん、あの一、いやいや、いいんですけどね、あの一、なぜそのことを尋ねたかというとね、
1666	吉井	うん。
1667	井形	あの一、まあ、正直ね、二重生活をやってたと、まあ先生おっしゃったから、今もされてるのかな と思ったんです。二重生活。つまり、こっち教えるんだけど、帰りは、まあ鎌倉帰られるとか。
1668	吉井	そんな俺、年に数回しか帰らへんやんか。
1669	井形	鎌倉には年に数回しか帰らない。
1670	吉井	うん、そう、そうや。ずーっとこっちですよ。
1671	井形	うーん。そうですか。いやいや、いいです、あの一、なんか言うのと、 先生ね、これがどうのこうのじゃなくてですな、
1672	吉井	うん。
1673	井形	あの一、まあ、あの一、なんて言いますかね、 我々はやっぱ、それ、なぜか言うのと、我々はフルタイムですよな。
1674	吉井	だから、俺フルタイムでやってるやんか。
1675	井形	先生、でも土日いらっしゃいます？
1676	吉井	土日なんかずーっとこっちやんか。
1677	井形	ここにいますか？
1678	吉井	あたりまえやんか。
1679	井形	ああ、そうですかー。
1680	吉井	そんな無茶、無茶苦茶な、ちょっと待って一な、俺の日記見てくれや。
1681	井形	いや、先生、時間なりましたんで、次の授業も、先生おありなんで、
1682	吉井	あのさ、
1683	井形	じゃあ、先生ね、こうし、さしてください、ちょっとね、もう一度、
1684	吉井	土、日もずーっとこっちやで、

1685	井形 いやいや、もうそんな、そんな先生、ささいなことはちょっととらえずに、あの、先生ね、これについては先生は、今おっしゃって、いやいや、もう、それちょっとお詫びしますわ。そら、そんなことない。あげますけども、その推薦委員会まで持っていけるかどうかというの、今少し自分では困難だと思ってましてね、先生私ちょっと、
1686	吉井 書類は全部あるのに、なんで困難なんかな。
1687	井形 いや、だから、ここで協議の結果なんですよ。ここがひっかかっているんです。
1688	吉井 それはカリキュラム委員会やろ。
1689	井形 や、先生、カリキュラム委員と私は、どう、一心同体です。
1690	吉井 うん、まあまあ、そらそうだろ、あなたの立場だったらね、
1691	井形 よろしいですか、カリキュラム委員会がだめなのに、僕だけが賛成で、ものが進められないのが現状なんです。
1692	吉井 あの一、推薦委員会にだしていただいて、僕が何か欠落している要因があるかどうかっちゃうのが明確になれば、その一、僕が認められへんだけの話やんか。
1693	井形 うんと、いや、推薦委員会は、学部できちんと合意、同意ができていのかをチェックされると思うんです。それがなければ推薦委員会も認められない可能性も出てくるんです。出したところで。よろしいですか、先生。
1694	吉井 推薦委員会で議論してくれや、お、俺のほうでは何も、その自分でコントロール、
1695	井形 ま、まあ、じゃあ仮に推薦委員会まで、
1696	吉井 落ちてもいいやんか、な。
1697	井形 うーん、僕はちょっと、つらいですね。
1698	吉井 いや、つら、つらく、つらかろうが、
1699	井形 うん、そんなとこにまで先生の名前出して、
1700	吉井 うーん、つらかろうが、その一、僕としては、この大学で10数年、一生懸命その、え一、大学と学生へのサービスをやってきたつもりやから、それに恥じる行動はしてないつもりやしね、だから、それで落とされるんだったら、落とされるでいいじゃないの。僕は別に恥じることはしてないし、それは全くいいですわ。
1701	井形 そうですかー。
1702	吉井 うん。で、あの一、え一、学長にはちょっと、すぐにアクション俺のほうからとらしてもらうようにするわ。こういうふうな状況になっておるんやというふうにとらしてもらう。
1703	井形 先生、あの一、
1704	吉井 うん。
1705	井形 それは避けたほうがいいかもしれません。
1706	吉井 いやいやそれはさしてくれ、要はね、僕はね、あの一、うちの経営学部が一番問題なのは、その、あの一、いわゆる北村さんたちの、北村、二宮、樋口さんという、そのNHKというふうにいわれてる人、俺もNHKとは何か知らなかったんやけどね、その人たちの行動が、一番、あの一、うちの経営学部を弱くしてるんだと思うよ。
1707	井形 ほんなら、まあ、一回あげれるよう努力してみますので。
1708	吉井 うん、お願いします。
1709	井形 じゃあ、すみませんでした。
1710	吉井 はいはい、どうも。